

第27回（2011年度）マツダ財団支援

市民活動概要

公益財団法人 マツダ財団

The Mazda Foundation

設 立 趣 意 書

我が国経済はめざましい成長を遂げ、今日多くの国民が、日常生活の中で豊かさを享受しております。

これには、科学技術の発展のあずかるところが大きく、産業界も厳しい環境を克服し、高度の技術革新をすすめることでその一翼を担ってきました。換言すれば、天然資源に恵まれない我が国は、人びとの英知と勤勉さを資源として科学技術の振興を図ることによって、国際社会に伍し、社会経済の発展を成し遂げてきたといえます。このことは、未来社会においても同様であると考えます。

一方、急速な経済成長は、国の内外における様々な分野で新しい課題を提起してきました。工業化社会、さらには情報化社会の進展による社会環境の変化が、青少年の社会生活に多様な影響を及ぼしていることもその一つであります。物質的な豊かさが精神的な豊かさをもたらさず、むしろ青少年の心の荒廃を加速しているのではないかと指摘されています。心身共に発達形成期にある青少年の育成に、今まさに適切な施策や方途を講ずることが望まれる所以であります。

人びとが共に繁栄を分かち合い、心豊かに生きることのできる社会の実現を願うとき、調和のとれた科学技術の発展と、将来これらを担うべき青少年の健全育成とが相まって達成されていくことが大切と考えます。

マツダ株式会社は、新しい価値を創造し、人びとの喜びをひろげていくことを経営理念として社業に精励しておりますが、このほど実施した社名変更を記念し、併せて創立65周年を来年に控えたこの時期に、経営理念の一端を具現することを願って、科学技術の振興と青少年の健全育成のための助成等を主な事業内容とするマツダ財団を設立し、広く社会の発展に役立てようとするものであります。この財団の趣旨が我が国だけでなく、国際的なひろがりの中で活かされれば、これに過ぎる喜びはないと考える次第であります。

昭和59(1984)年10月

目的及び事業

目的：この法人は、科学技術の振興並びに次代を担う青少年の健全育成のための助成等を行い、もって世界の人びとが共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与することを目的とする。

事業：この法人は、この目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 科学技術の振興に寄与する研究並びに諸事業に対する助成
- (2) 青少年の健全育成に寄与する研究並びに諸事業に対する助成
- (3) 科学技術の振興及び青少年の健全育成に関する講演会、シンポジウム・講座、セミナー等の開催
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

マツダ財団は

科学技術の振興
青少年の健全育成

分野の社会貢献を行っています。

科学技術の振興

○研究助成

募集期間：例年4月下旬～6月上旬

現在並びに将来にわたって解決が求められている、科学技術に関する基礎研究及び応用研究に対する助成。「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」を優先して助成。

対象は、全国の大学及び研究機関。

(累計件数 685件 累計金額 9億4,650万円)

○科学わくわくプロジェクト

青少年の科学離れへの対応として、小中学生や高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し、「科学するところ」を養うことを目指した事業。

広島大学との連携で、同大学の知的資源を活用した地域貢献プログラムとして実施。

○事業助成

募集期間：例年4月初旬～4月下旬

中国地方で開催される小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等に対する助成。

対象は、中国地方の大学及び研究機関。

(累計件数 261件 累計金額 2,736万円)



○研究助成

募集期間：例年4月下旬～6月末

次代を担う青少年の健全育成に寄与する研究に対する助成。市民活動との連携強化を図り、市民活動活性化に寄与する実践的な研究に注力。対象は、全国の大学及び研究機関。

(累計件数 159件 累計金額 1億6,448万円)

○市民活動支援

募集期間：例年10月中旬～1月中旬

次代を担う青少年の心豊かな成長の一助となる、地域に密着した活動に対する、資金・人材・ノウハウにわたる総合支援。対象は広島県及び山口県の青少年関係の民間諸団体。

(累計件数 510件 累計金額 1億5,660万円)

○感動塾・みちくさ

児童・生徒、指導者、ボランティアの創意工夫を育む「感動塾・みちくさ」を開催。(財)広島市未来都市創造財団との共催。

○大学講義

広島地区の大学を対象に開催。2012年度は、広島女学院大学にて「特別講義1(ボランティア活動論)」を実施。

○講演会

本財団の活動主旨を広く皆様に知っていただく活動の一つとして開催。

2008年 2月 柳田邦男氏 「大人が変われば子どもも変わる～いま、絵本の力～」

2008年12月 鎌田 實氏 「生きているってすばらしい～幸せの探し方～」

2009年11月 茂木健一郎氏 「脳を育てる習慣」

2010年11月 養老孟司氏 「生きる力」

2011年11月 姜尚中氏 「『悩む力』とこれからの日本」

(数値は2012年7月1日現在)

名 称： 公益財団法人マツダ財団

設 立： 1984年10月26日

公益法人への移行： 2010年11月 1日

所 管 行 政 庁： 内閣府

事 業 の 概 要： 世界の人びとと共に繁栄を享受し、心豊かに生きることのできる社会づくりに寄与するため、科学技術の振興及び青少年の健全育成に寄与する研究・諸事業に対する助成、講座・セミナー等の事業を行う

住 所： 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内 〒730-8670

電 話 番 号： (082) 285-4611

フ ァ ッ ク ス： (082) 285-4612

E-mailアドレス： mzaidan@mazda.co.jp

ホ ー ム ペ ー ジ： <http://mzaidan.mazda.co.jp/>

マツダ財団 第27回市民活動支援一覧 – 青少年健全育成 –

活 動 名	団 体 名	ページ
各種陸上競技大会の開催と青少年の健全育成	府中陸上競技協会	1
こわれたおもちゃの修理をとおして 青少年の健全育成と環境保全事業	ひろしまおもちゃ病院	3
東区障害児のためのサマースクール	東区障害児のためのサマースクール	5
子供への居場所提供	食べて語ろう会	7
親子で体験！五感で実感！大きな発見	みやじま未来ミーティング	9
カープと市民の物語 紙芝居化プロジェクト	プロジェクトC	11
エコINNくろせ「わになれ黄金小麦」	エコINNくろせ	13
太田川アクティブアーチ ワークショップ体験	太田川アクティブアーチ実行委員会	15
手作りの紙人形劇(ペープサート)を通じて地域を元気にする	夢配達人プロジェクト 玖島実行委員会	17
「みらい座」朗読劇『福山空襲』10周年記念公演	特定非営利活動法人みらい福山	19
2011年度”直美の部屋”コンサート	直美の部屋	21
広島県内に於ける小中学生のロボット競技体験活動	ロボカップジュニア広島ブロック保護者会	23
永慶寺川の多様な自然を守り、育てる活動	永慶寺川の自然を守る会	25
子どもシェルターの開設・運営	ピピオ子どもセンター	27
第4回(財)日本ダウン症協会中国ブロック大会in広島	(財)日本ダウン症協会広島支部 えんぜるふいっしゅ	29
高校生による「太田川学」研究	高校生環境ネットワーク広島	31
吉島地域の町職人と留学生が連携した 「小学生のための物づくり体験」	よしじま職人工房	33
NPO・NGO ユース・インターン・プログラム(YIP)	ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART	35
世界の遊びを体験してみよう！	カモミール～ラマシカ～	37
野生への挑戦 子どもキャンプ	まちづくりジュニアスタッフ”ACT”(アクト)	39
通学合宿	通学合宿実行委員会	41
人と自然とのふれあい	大人のかくれ家倶楽部	43
府中町子ども応援隊	府中町子ども応援隊	45
ONE HOME PROJECT(ワン・ホーム・プロジェクト)	Global Bridge	－
世界に屈しないグローバルな子どもの健全育成支援活動	ふれあいの森なんでも工房	47
しゅうなん子どもドリームスクール	ドリームスクール実行委員会	49
おごおりウィークエンドアドベンチャー	おごおりウィークエンドアドベンチャー 実行委員会	51
ものづくり科学教室	日本宇宙少年団 周南分団	53
ホタル飼育施設の整備	富海をホタルの里にする会	55
地域における青少年のための多文化共生事業	国際交流ひらかわの風の会	57
障がい者スポーツ教室	障害児(者)サポートクラブ翔	59
合 計		31件 800万円

活 動 名	団 体 名		府中陸上競技協会		
	地 域		広島県安芸郡		
	代 表 者		会長 樽谷 光雄		
	支援金額		25万円		
各種陸上競技大会の開催と青少年の健全育成					
活動概要					
運動の基本、走る・跳ぶ・投げることの楽しさと重要性を子どもたちに伝えるために、毎月記録会(100m走・立幅跳び・ソフトボール投げ)・長距離会を実施して体力強化維持を目指すとともに、駅伝大会等を開催している。各大会に参加することにより、陸上競技の楽しさを知り、小学生の県大会・全国大会に出場、中学生には全国中学選手権・ジュニアオリンピックで優勝するなど技術向上が見られる。公園の清掃等の実施により地元住民とのつながりを持ち、健康づくりの効用と健全な青少年育成の援助活動を実施する。					
◆実施時期					
リレーカーニバル大会		平成23年10月 8日(土)	空城山公園グラウンド		
ロードレース大会		平成23年12月11日(日)	空城山公園グラウンドと周辺コース		
駅伝大会		平成24年 2月19日(日)	府中中央小学校グラウンドと周辺コース		
記録会		毎月第2・第4土曜日	空城山公園グラウンド		
◆参加人数					
リレーカーニバル大会		小学生181名	中学生 29名	計210名	
ロードレース大会		小学生 37名	中学生 44名	一般 35名	計116名
駅伝大会		小学生122名	中学生172名	一般162名	計456名
記録会		小学生・中学生 年間936名			
参加総人員:1,718名					



支援金により製作(3大会のゴールテープ)



支援金により製作(ナンバーカード)



支援金により製作(赤白旗)



ロードレース大会でのゴールの瞬間！

◆実施に伴う効果

- ・☒リレーカーニバルでは、学生毎に仲間づくり・助け合いが学べ、体力作りに関心が持てている。
- ・☒ロードレースでは、4年生以上であるが走る喜びを知ることができ、体力づくりができています。
- ・☒駅伝では、4年生以上であるが、チーム作りから仲間づくり、協力・助け合いができるようになっていく。
- ・☒記録会には、親子で体力づくりに関心が生まれ、幼児からの参加も増えてきている。
- ・☒それぞれの大会において準備に中学生が積極的に参加して協力・助け合いの心が生まれている。
- ・☒各大会・記録会においても、体力づくり・コミュニケーションづくりに関心が向上しているように思えた。

◆苦勞した点

- ・☒リレーカーニバル・駅伝においては、小学生の参加が多少はあるものの、ロードレースにおいては小学生の参加が非常に少なく、締切を遅らせて学校に参加へのお願いをしても、なかなか集まらなかった(数年前に比べて半数以下となる)。
- ・☒少ない予算内で参加賞等の選択に毎回悩む(参加料が低いのか?)。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・☒一人または一チームでも参加者が増えるよう、大会要項とは別にポスターを作成して学校に配布しPRをしたい。
- ・☒継続ある大会を継続させるためにも、若い人に一人でも多く運営面に参加してもらえ、雰囲気を作り、新しい考えを大会に入れて行きたい。
- ・☒ロードレース・駅伝について今後ますます車・人が増えると今のコースでは開催が困難となる可能性が出てくると思われ、長年続いて来ている大会なのでもっと発展させるよう色々な意見を取り入れていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・☒支援により新しくナンバーカードを作成し、運営が楽になった。
また、3大会のゴールテープを造り、ゴール時の雰囲気が非常に良くなり、大会が一段高くなったように思えた。
- ・☒当初予定していたタスキの代わりに赤白の旗を準備したことにより、ロードレース・駅伝での交通整理を行っている気持ちが芽生え、交通整理に役立ったと思う。
- ・☒それぞれの大会の写真が撮れなかったことを心よりお詫びいたします。
それぞれ親等個人的には写されていたように思いますが、役員不足(言い訳のようですが)で写真を撮る人が居なくて申し訳ありませんでした。

活動名	団体名	ひろしまおもちゃ病院
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 大島 誠二
	支援金額	12万円
活動概要 こわれた「おもちゃ」をボランティアの有志が修理することにより、ポイ捨て防止の意識向上と「物を大切にする心」を育むと同時に、物や人への「思いやり」を今年度も重点目標に掲げたおかげで、親子・青少年・団塊の方々に大きな関心をもっていただき、スタッフの増員と併せて、広島市近隣の廿日市市に「ひろしまおもちゃ病院みやぞの」を開院することが出来ました。 ◆実施時期 平成23年4月～平成24年3月(1・8月除く)毎月実施 祇園公民館、亀山公民館、二葉公民館、五日市公民館、宮園公民館 ◆参加人数 スタッフ 延べ 803名 一般参加総数 延べ 2,364名		



心配そうに見守るお子さん



多くのスタッフに支えられて盛況の「おもちゃ病院」



完治してお迎えを待つ「おもちゃ」



電子部品不良も多くなってきました

◆実施に伴う効果

平成23年度から活動概要にもありますように、廿日市市の宮園公民館に「ひろしまおもちゃ病院」
として18名のスタッフで5番目の病院が新規に開設しました。

今年度は、活動報告にもあるように、おもちゃ病院が開設されて34年の時代の変遷の中で多くの
マスコミの関心も多く、貴財団など団体等からの支援もあり、広範囲からの老若・男女のボラン
ティアスタッフに支えられて来た活動が高く評価されたお陰で、平成24年1月21日、広島市文化交
流会館で、第14回広島ユネスコ活動奨励賞の社会部門で受賞しました。

◆苦勞した点

予算利用

- ・☒平成23年度(2011)は、貴財団からの活動支援のお陰をもちまして、懸念されていた廿日市の
宮園公民館に「ひろしまおもちゃ病院」5番目の「みやぞの」が滞る事無く開院することが
でき開設準備資金を提供しました。
- ・☒前回の活動支援を授かった時に、各病院開院日にデモンストレーション用に液晶モニター
を購入させていただき重宝していましたが、病院数も増え利用にも重複して支障があり、
今年度の予算の中で2台目を購入させていただき、有効に活用しています。

外部へのPR

- ・☒今年度も、広島市未来都市創造財団の主催事業団体に登録されたおかげで、
広報(…だより)等に積極的に掲載され、広く市民に認識されています。
- ・☒廿日市市においても、行政が23年度は育成団体として減免対象でしたが、今年度から
昨年の実績を考慮し、ひろしまおもちゃ病院の過去の経緯を勘案してくださり、
市の管轄する団体として今年24年度より登録が認知されました。(施設使用料減免対象団体)
※ 経費の財源は、患者(治療にお目見えになった方)からの善意で、賄っています。
- ・☒貴財団のネームPRについては、モニターへの表記をさせていただき、運営資金の流れ等、
収支については極力スタッフには十分周知、お話をさせていただいています。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・☒活動日が原則、日曜日なので現在5箇所が開院していますが、意を同じくするスタッフが増えた
おかげで其々の病院で自主管理ができるようになった事は喜ばしいことです。
- ・☒代表として今後は、各種の団体、特に行政とは活動が容易にできるように調整を密にして、
スタッフの個々の意向を十二分考慮して行きたいと思っています。
- ・☒治療用具等は、スタッフ自身が得意分野の好意で専用の用具を持参していますが、
消耗品(接着剤・特殊な共用道具等)の購入が限定されるので予算執行が大変厳しいです。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・☒昨年、新規に「なぎさ中・高等学校のボランティア部の先生、指導のもと生徒が
「なぎさ支部」として正式に「ひろしまおもちゃ病院」に登録して活動を始めました。
- ・☒廿日市市の「みやぞの病院」を起点にその輪が拡大されるよう協力して行きたいと思ひます。

活 動 名	団 体 名	東区障害児のためのサマースクール	
	地 域	広島県広島市	
	代 表 者	代表 川尻七美	
	支援金額	10万円	
活動概要			
障害を持つ子ども達が ①夏休みを有意義に過ごせるように、身近な地域での居場所づくりをし、 将来就労を支える余暇活動を豊かに積極的に行う。 ②地域との交流、連携を図り、理解を深める。 ③仲間との外出を楽しむ(特に肢体不自由児) を目的としています。夏休みの10日間、講師を招いてクッキング、レクリエーション、スポーツ活動、フィットネス、作業所のレク、コンサート、ボーリング大会、ボランティアさんによるミニ運動会、フラダンスを行いました。 ◆実施時期 夏休み中の10日間 東区総合福祉センター、心身障害者福祉センター、広電ボウル ◆参加人数 広島市立特別支援学校児童生徒 17人、 小中学校特別支援学級児童生徒 17人、 県立特別支援学校児童生徒 3人、 小中学校児童生徒 2人、 ボランティア(民生委員含)のべ 74人 指導員 6人、 保護者 38人で 10日間、開催。 参加総人員 528名			



フラダンス



ミニ運動会



ボーリング受付にて



ボーリング1位表彰

◆実施に伴う効果

- ・☑民生委員さんをはじめ、社協さん登録のボランティア、ヤングボランティアセミナーの受講生の方など地域の方が障害のある子どもたちと触れ合って理解を深めていただけた。
- ・☑地域との交流というところでは、東区尾長地区の一人暮らしお年寄りのグループひまわりかいさんがおいでくださり、レクをしていただいた。東区内の知的障害者が通う作業所、きつつき作業所、つくしんぼ作業所も毎年恒例で来ていただき、どれも大変好評でなくてはならないものとなっている。
- ・☑活動後のアンケートでは(回収率100パーセント)満足した、が92パーセントで高い満足度となっている。長い夏休み中の障害児の居場所としてなくてはならないものと定着している。

◆苦勞した点

- ・☑予算については今年度はマツダ財団様より助成金を頂くことができたので比較的、余裕があった。しかしながら子ども達の活動の安心、安全の為には指導員を置くことが絶対不可欠であり、今後も予算のことを考えながら指導員の数を減らしたり、増やしたりと一喜一憂することが毎年苦勞する点である。
- ・☑地域の理解という点で、東区総合福祉センターは障害児者のみではなく高齢者、乳幼児も広く利用する場所であるゆえに、東区サマースクールの障害児が乳幼児の利用する部屋に入りこんだり、また、今年、一名の障害児が乳幼児に(悪気は全くないのだが)叩くという事件が起きた。無論、心からの謝罪をしたのは言うまでもないが、センターの管理側はすぐ理解を示してくれたのだが、やはり被害乳幼児の母親の立腹はなかなか納まらなかった。この点は永遠の課題である。
- ・☑昨年のアンケートから人気のあった企画を、と考えるがなかなか小学校1年～高校3年生まで皆が楽しめるという企画は難しい。講師の予約、調理室の予約なども確保するのが毎年苦勞している。

◆今後の課題・発展の方向性

課題

- ・☑予算の確保は毎年の課題である。助成金がある年とない年で指導員の数が増減するのは本当は避けたいものである。今年は助成金があり、すごく助かった。
- ・☑この事業を引っ張ってきた役員が今年度、卒業の子どもが多く、事業の存続を担ってくれる保護者がほしい。あと、三年は大丈夫だが後継者問題が出てきている。

今後の発展性

- ・☑長い夏休みの障害児の行き場としてこの会は今年度9年目ということで定着している。また、他の区でも事業を開始した、と聞いている。
- ・☑地域の中で仲間と過ごしていない障害児はまだたくさんいる。さらにネットワークを拡げてゆきたい。
- ・☑今年度、瀬戸内高校の生徒さんのボランティアがたくさん来ていただけた。障害児とはゆえ、やはり同世代の子どもとのふれあいも大切にもっと学校にも呼びかけてゆきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度で9年目の本事業ですが、毎年内容もよくなっていると自負している。地域との交流も昨年より民生委員さんも年中行事に組みこんでくださり、益々発展している。参加者の満足度も92パーセントと高いものになっている。もはや、東区の夏休みの活動としてなくてはならないものとなっている。ずっとこの事業が続けていけるように子どもが卒業してもサポートしてゆきたい。

特に今年はマツダ財団様より助成金を頂けたおかげで指導員体制が強化でき、またバスも借り上げられ、皆でのお出かけも実現できました。本当にありがとうございました。

活動名	団体名	食べて語ろう会
	地域	広島県広島市
	代表者	会長 田村 美代子
	支援金額	24万円
子供への居場所提供		
活動概要 親が薬物依存症になったり、貧困等劣悪な家庭環境に置かれた子どもたち。その多くは、学校にも家庭にも居場所がなく、万引きや暴力等の非行に走るケースも多い。この会では、そのような子どもたちに手料理を振る舞い、地域の力で受け入れ、居場所を提供する活動をしてきた。 手料理をふるまうことで、子どもたちに「家庭のぬくもり」を感じてもらい、非行を防止して子どもたちの健全な育成を目指す地域活動である。 ◆実施時期 ①「食べて語ろう会」 毎月第1・第3日曜日、午後3時～午後8時 広島中央公民館2F ②ほぼ毎日、夕方～ 元保護司 中本忠子宅(広島市中区基町) ◆参加人数 ①「食べて語ろう会」 毎月第1・第3日曜日 約25～30名×2回×12か月＝720名 ②元保護司 中本忠子宅 約6名×300日＝1,800名 参加総人員 2,520名		



みんなで和気あいあいと！！



性教育も熱心に聞いています



少年達も調理を手伝います

◆実施に伴う効果

この活動により、子どもたちの非行(万引きや暴力行為)は無くなり、確実に良い方向に進んでいる。「食べて語ろう会」の活動が「ばっちゃん引退」というタイトルで、平成23年の1月にNHKのローカル番組で、平成23年7月には全国放送で紹介されてからは、反響が大きく、是非とも同じような活動をしたいとの話が沢山来ている。

◆苦労した点

予算の問題

「食べて語ろう会」の参加人数が増えて、毎回25名～30名と増加しているため、食材費のやりくりが苦心している。また、調理するスタッフも5人ぐらいと人員が不足している。

参加者

この活動を始めた当初は、地域の子どもたちが対象であったが、最近は、中区のあちこちからをはじめ、東区、南区、西区、安佐南区や五日市、廿日市の子どもたちもやってきて、かなりの広範囲から参加してきている。

◆今後の課題・発展の方向性

この活動の参加者も増え、どんどん規模が大きくなるにつれて、場所の問題やスタッフの人員不足、スタッフの高齢化等の課題が出てきた。そして、大きな課題は、何と言っても予算不足である。また、「食べて語ろう会」とともに、「小・中学生の勉強会」も実施中であるが、学校からの要望もあり、大学生のボランティアをお願いして、規模の拡大を考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

平成22年11月、平成23年1月、平成23年7月と、NHK総合テレビでこの活動が放送されて以降、大変大きな反響を得ている。

これも偏に「マツダ財団」からの助成があったからこそと、心から感謝をしています。

明日を支えていく少年たちが、非行に走らぬよう、健全に育成していくために、私たちは地域の力としてこれからも頑張って活動していきたいと思っています。

活 動 名	親子で体験！五感で実感！大きな発見 ～宮島の自然と環境を楽しもう～		団 体 名	みやじま未来ミーティング												
			地 域	広島県広島市												
			代 表 者	事務局 馬場田 真一												
			支援金額	25万円												
活動概要																
みやじま未来ミーティングでは、宮島の自然を、守り・伝え・活用することを目的に、「環境学習プロジェクト」「海岸環境回復プロジェクト」「自然観察会指導者養成プロジェクト」に取り組んでいます。基幹事業として年間6つの事業を展開しています。この事業は、親子で参加していただき、子どもたちの興味や関心、好奇心のきっかけを保護者と共有することを狙いとし、自然観察や学習を通して、宮島を知り、楽しんでもらうことを目標に活動しています。各事業は小学生中・高学年をメインターゲットとして企画しており、ただの体験だけではなく、学習につながるよう力を入れています。 また、体験、実習に関しては、スタッフは案内役となり、子どもたち主体で事業が展開されます。興味関心度合いによってペースや内容を臨機応変に変更し、「子どもたちが理解する」「できるようになる」を目指します。また、リピーター参加の子どもたちには、グループのリーダー役を促し、「自分の経験を伝える」「仲間を助ける」ということも経験してもらっています。																
◆実施時期 2011年1月中旬 ～ 2011年12月上旬 廿日市市宮島 包ヶ浦海岸・腰細浦海岸																
◆参加人数 <table border="0"> <tr> <td>・メダカの観察会</td> <td>19人</td> <td>・ホタルの観察会(雨天により中止)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>・海辺の自然観察会①</td> <td>30人</td> <td>・海辺の自然観察会②</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>・腰細浦海岸清掃4月</td> <td>48人</td> <td>・腰細浦海岸清掃12月(雨天により中止)</td> <td>0人</td> </tr> </table> ※スタッフ人数を除く					・メダカの観察会	19人	・ホタルの観察会(雨天により中止)	0人	・海辺の自然観察会①	30人	・海辺の自然観察会②	24人	・腰細浦海岸清掃4月	48人	・腰細浦海岸清掃12月(雨天により中止)	0人
・メダカの観察会	19人	・ホタルの観察会(雨天により中止)	0人													
・海辺の自然観察会①	30人	・海辺の自然観察会②	24人													
・腰細浦海岸清掃4月	48人	・腰細浦海岸清掃12月(雨天により中止)	0人													
参加総人員 121名																



4月 ごみの計量の様子



5月 めだか釣りってできるの



7月 海辺の生きものの調べ



7月 海辺自然科学の実験教室 ヘドロで電池

◆実施に伴う効果

すべての事業において、ただ教えるだけではなく、「自分でやってみる」「五感で感じる」をテーマに事業を組み立て、実施してきた。普段の学校生活でも、友だちとのあそびではなかなか体験できないことに触れてもらい、経験という記憶と記録を残してもらったことは、これからの人生に何らかのプラスになるものと確信している。この点については、一緒にご参加いただいた保護者からのアンケートからも読み取る事ができ、これからも活動を続けてくださいと激励の言葉をいただいた。

H P の作成、活動情報発信に力を入れた結果、多くの方や企業から問い合わせをいただいた。「みやじま」というフィールドの知名度の後押しもあり、平成23年度は、2社と単発ではあるが協働イベントを実施するに至った。会の収入や広報などにも大きくかかわる協働実施については、今後の会の自立のことを視野にいれ、単発に終わらない、継続した協働の事業が実施できるよう工夫していきたい。

◆苦勞した点

- ・天候不順の場合の手当て
自然相手の事業のため、天候不順で流れた場合、次週へ順延などが難しい。準備物を無駄にしないためにも、何らかの解決策を検討していきたい。
- ・活動しているスタッフの固定化と新規育成と増強
なるべく経験の浅いスタッフに前に出ってもらうようにし、熟練スタッフが上手く支援する形を確立したいと考えている。また、新規の会員募集にも力を入れていきたい。
- ・予算
島内の道路は細く、見通しも悪いため、助成金で船をチャーターしている。
基本的にはあるもので、集められる参加費で実施を考えているが、参加者やスタッフの安全面・効率・負担などを考えると、送迎費にどうしても費用がかかってしまう（フェリー代や船チャーター）現状がある。今後、参加規模の見直しなど検討していく必要が出てくる可能性がある。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・スタッフの育成と、実戦経験強化
会員のなるべく多くのメンバーに、講師経験をつんでもらい、イベント運営できる体制を強化していく事が課題。
- ・事務機能の分散
全体の会計・事務と個別の事業の事務を分散させ、講師を中心に企画・準備・片付け・ふり返りが行えるようにしていきたい。
- ・会の収入
今後の独立を視野に入れた場合、どのような事業体と協働したり、どういった事業収入を考えるかなど検討が必要。また、一般企業とタイアップする場合、「法人」であるかないかについて問われた。それなりのお金の動きが発生する場合は、法人取得についても検討しなければならない。

◆活動を終えての感想・意見等

今年度も事故無く、多くの方に宮島を体感してもらう事ができました。
「百聞は一見にしかず、百見は1考にしかず 百考は1行にしかず」
インターネットで何でも調べられる時代ですが、実際に自分の目で見る、考える、やってみるというプロセスは人が大きくなる上で切っても切れないプロセス。MMMでは、多くの方に参加してもらい、参加してくださった方にどうしたらもっと楽しくなるか、上手になるかなど「考えてもらう・実際にやってみる」ことを伝え、今後にもひとつでも役に立ったと言ってもらえるような事業展開をこれからも続けていきます。

活動名	団体名	プロジェクトC
	地域	広島県広島市
	代表者	世話人代表 真宅 成光
	支援金額	20万円
活動概要		
原爆により壊滅した広島。廃墟の中、やっと灯った県民市民の希望が「広島カープ」でした。カープの活躍に今日を生きる力をもらった広島の人々の歴史は、ヒロシマ復興の歴史でもあります。 しかし、カープ誕生から60年以上が過ぎ、球場も移転した今日、その歴史や人々の想いは次第に薄れてきています。そのため、プロジェクトCでは、日本唯一の市民球団とよばれるカープの歴史や、スポーツから生きる力を得た人々の想いを、未来を担う子供たちや広く県民、市民に語り継ぐことは、広島に住む人間の責務と考えています。ついでには市民とカープの関係を表す4つの物語（石本秀一物語、長谷川良平物語、津田恒美物語、カープ初優勝物語）を紙芝居化し、公民館・学校、その他の施設などで青少年を中心に幅広い人々に紙芝居を披露し、戦後の復興のシンボルとして広く県民市民に愛されたカープの歴史を知ってもらい、郷土広島の魅力の後世に引き継ぐ活動を展開しました。また、デジタル社会の今、アナログ文化の原点でもある紙芝居の魅力を知ってもらい、紙芝居を読む楽しさを味わってもらうために、これから紙芝居を読みたいと思う人を対象に「かんたん紙芝居講座」を開催し、紙芝居師の育成に努めました。 ◆実施時期 2011年4月1日～2012年3月25日（紙芝居の上演：34回、JR広島駅南口愛友市場外） 2011年11月23日（ひろしま紙芝居祭の開催：ハノーバー庭園及びこども文化科学館） 2012年1月21日～2月18日（毎週土曜日）（かんたん紙芝居講座4回、二葉公民館） ◆参加人数 プロジェクトCスタッフ： 25名、（紙芝居の制作・上演） 紙芝居鑑賞者： 約1,550名 かんたん紙芝居講座受講生：25名 参加総人員：1,600名		



かんたん紙芝居講座



紙芝居「カープ初優勝物語」の作業風景



紙芝居「カープ初優勝物語」上演前



紙芝居「カープ初優勝物語」上演中

◆実施に伴う効果

全てがデジタル化されつつある今日、アナログ文化の原点でもある紙芝居の魅力が徐々にではあるが見直されつつあり、県内をはじめ中国地方でも紙芝居が復活しているようである。

青少年にとっては、直接紙芝居師の話しを聞きながら、紙芝居を見る新鮮さを感じてもらい、また、中高年にとっては、古き良き時代の郷愁を感じながら紙芝居を見てもらっています。

また、紙芝居を読む楽しみは、語りを覚えるのではなく、直接観客の反応を感じながら、紙芝居を読むことができるため、多くの人が紙芝居を語ることを望んでいます。

また、カープの歴史を紙芝居と言う手段で披露することにより、青少年には大変理解し易く、カープへの新たな関心を抱く切っ掛けを与えているし、中高年には、懐かしい思い出として郷愁を感じながら、時には涙を流しながら紙芝居を見てもらっています。

◆苦労した点

今回の紙芝居作成に関しては、紙芝居の印刷、紙芝居木枠作りについては専門業者に委託したが、紙芝居のシナリオ作り、デザインの決定、紙芝居の絵描き、厚紙張り等は自分たちが行ったので、経費的には安価に出来たと思います。

また、「かんたん紙芝居講座」は、二葉公民館と共催にして実施したため、受講生の募集広告は、公民館だより等で行ったので当初20名の募集が、受講申し込みが当初予定を大幅に上回ったため最終的には25名の受講生を受け入れる事となった。

更に、この講座は二葉公民館との共催事業として実施したため、会場使用料についても減免処置を受けることが出来た。

外部へのPRについても、二葉公民館と連携して行事を企画しているので、公民館を通してマスコミ関係に資料提供をしているため、我々の行事をマスコミも積極的に記事にしてもらっています。また、我々の行事は、公民館だよりに掲載してもらっているので地域住民へのPRも充分に行われていると思われます。

紙芝居の読み手については、筋書、セリフはシナリオを見て語るので、覚える必要はありません。また、観衆が目の前にいて、見ている人の雰囲気や直接、瞬時に紙芝居の読み手に伝わってくるので、ほとんどの人が紙芝居の読み手になりたいと言っています。一度紙芝居を読むとその快感は忘れがたいものになるようです。

紙芝居の上演は、この一年で30数回に及んでいます。紙芝居上演は、イベントとして地域に大変溶け込みやすい手段だと思っています。

◆今後の課題・発展の方向性

デジタル社会の今日、アナログ文化の原点でもある紙芝居の上演は、子どもたちには最高に新鮮で物珍しいものに映る様です。一方、中高年にとっては昔懐かしい郷愁を感じるようであり、これからも紙芝居は静かなブームを呼ぶものと思われます。我々プロジェクトCは、「カープと市民の物語 紙芝居化プロジェクト」を更に発展させるため、昨年「まち物語制作委員会(委員長:真宅成光)」を立ち上げ、カープに関連する紙芝居以外にも、その街・その地方に伝わる伝説や物語を紙芝居にして、広島の魅力として発信し加えて後世にその伝説や物語を伝えて行く活動も行っています。

更に、津波と福島原発事故で壊滅的に被災した福島をはじめ東日本の復興を支援するため、東北地方に伝わる民話やいわれ、街の物語などを現地に入って聞き取りそれを紙芝居にして、我々が現地に赴き上演したのちその紙芝居を寄贈すると言う「東北まち物語100本プロジェクト」を立ち上げました。

そして、2012年3月3～5日には福島県いわき市、二本松市、桑折町の仮設住宅5か所で紙芝居を上演し、現地の物語を紙芝居にした作品、10本を置いて帰りました。

次回は今年の12月に行く予定で、目下地元の人たちから聞き取りを行いながら、次なる紙芝居の制作を行っています。

◆活動を終えての感想・意見等

「広島県民・市民は、カープを抱き所にして、戦後の窮極を乗り越えてきました。まさにカープの歴史は、広島の復興の歴史でもあります。」との認識の下でカープ昔話の紙芝居を作成し広く一般の人々の前で上演してきました。

その回数は、2008年12月の第一回から2012年3月時点で延べ100日以上になり、2011年4月から2012年3月の一年間でも延べ34日、上演回数は44回以上になります。

また、紙芝居の語り部養成講座は、想像以上に盛況でした。最終日には、受講生全員が自分が選んだ一本の紙芝居を他の受講生の前で演じる講座でありましたが、それぞれ受講生は、思い思いの趣向を凝らした演じ方を披露して大変楽しそうであつた笑顔が絶えませんでした。

そして、この度の東日本大震災に際し、我々は東北地方に伝わる民話や、伝説、まち物語を現地に行って聞き取り、紙芝居にして現地で上演し、その紙芝居を地元へ寄贈してきました。

東北での紙芝居の上演は、地元の紙芝居を上演すると共に、広島カープ昔話の紙芝居も復興のシンボルとして、東北地方の人々を勇気づけるきっかけになればとの思いを込めて上演した。

たかが紙芝居であるが、されど紙芝居である。益々デジタル化される社会の中で、今後も紙芝居文化は廃ることなく人々の心の中に入り込んでいくものと思っています。

活動名	エコINNくろせ「わになれ黄金小麦」 環境学習の内容充実と活動範囲拡大	団体名	エコINNくろせ
		地域	広島県東広島市
		代表者	会長 西濱 忠孝
		支援金額	25万円
活動概要	「わになれ黄金小麦」の活動(麦踏み、麦刈り、蛍籠作り、うどん作り等)のなかで、口頭主体の座学の方法からプロジェクターを使った目に訴える方法に改善した。また、その他の活動でも説明方法をプロジェクター利用に移行してきた。新規取組の稲作体験についても体系的な学習に移行していく。大きなスクリーンを利用した説明やDVD放映は、児童生徒達の関心を深めより効率的な学習になってきた。今後、プロジェクターを利用する私たちも勉強し、より体系的効率的な学習が出来るよう研鑽して行きたい。 ◆実施時期 今年1年間を通じて実施。 主に、乃美尾小学校、乃美尾ふれあい館、西濱圃場 ◆参加人数 (生徒、先生、主催等) I. 麦作り体験 ①2011.1.20参加者44=35+3+6 ②2011.5.26参加者43=35+3+5 ③2011.6.15参加者46=30+4+12 ④2011.10.17参加者37=29+4+4 ⑤2011.11.23参加者12=0+0+12 ⑥2011.11.24参加者130=102+14+14 II. エコクッキング 2011.6.10参加者42=29+3+10 III. ゴミの保光川ハウマッチ 2011.7.17参加者52=13+0+39 IV. 新規活動内容 ①稲作り体験2011.5.16参加者26=19+2+5、 2011.9.15参加者28=17+2+9 ②用水路見学2011.9.23参加者18=12+1+5 ③石焼芋作2011.12.7参加者122=102+14+6 参加総人員:600名		



プロジェクター、スクリーン



エコクッキング風景



保光川ハウマッチ風景



うどん作り風景

◆実施に伴う効果

学習形式の改善

従来の模造紙・口頭説明形式から、プロジェクター利用の学習様式を採用
エコクッキング、ゴミの保光川ハウマッチ、うどん作り の3つの活動でプロジェクターを利用した。

- ① ☒ エコクッキング: パワーポイントは作ったが、プロジェクターの導入が遅れたため、小学校から借りて実施した。しかし、従来様式に比べ児童の反応は良く、真剣に聞き意見も出た。プロジェクター利用方式採用の効果を実感した。
- ② ☒ ゴミの保光川ハウマッチ: マツダ財団支援金で購入したプロジェクター、スクリーンを使用し初めての説明を行った。
最初に、当日の活動目的、スケジュール、注意事項などをプロジェクターに映し出し説明した。小さい子供が主体なので絵・写真による説明は、関心を惹きつける効果があった。また、スクリーンが90インチと大きく、皆に良く見えたのも良かった。
また、ゴミ拾い、魚捕りの後、食事時間に、大型のスクリーンで「エコINNくろせ活動DVD」「温暖化関連DVD」を放映したが非常に好評であった。(昨年までは、TVに放映していたので前の方の人しか良く見えなかった)
* プロジェクターを使った最後に、「この設備は、マツダ財団からの支援金で購入させて頂きました。今後、この設備を有効に使って、より分かりやすい学習にしていきます。」と説明を行った。
- ③ ☒ うどん作り: 「わになれ黄金小麦」一連活動の最終工程のうどん作りで、プロジェクターの活用が非常に効果的であった。従来は、うどんの作り方(特に実演の工程)の口頭説明程度であったが、今回は、今年一年間麦作り体験をした写真を使い、麦がうどん粉になるまでの説明、小麦輸入量が多い事、地産地消の大切さ、昔ながらのうどん作りは皮の部分もあり白くないが栄養分が豊富であることを分かりやすく説明する事が出来た。生徒はもちろん、先生や喜楽会の方からも評価を頂いた。また、説明の最後に、「車を作っているマツダから、乃美尾小学校の生徒達は真剣に環境問題に取り組んでいるので、ごほうびにこのプロジェクター、スクリーンを買って下さいました。これからも、しっかり勉強しましょう」と結びました。

◆苦労した点

- ・ ☒ プロジェクターの利用は、効果的である事が実証できた。しかし、パワーポイントなどの資料作りが不慣れであり、時間がかかり、未だ思うような仕上がりにならない。
- ・ ☒ 体験学習の為、野外活動が多いので、使えない事もある。パンフレット等での説明も必要である。
- ・ ☒ 今回の支援金希望30万円に対し25万円の為、プロジェクター関連機器一式のみで使い切ってしまった。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ ☒ 「用水路見学」は、説明内容も多く、難しい内容、慣れない言葉も多い。今後の活動では、見学の前にパワーポイントを使った座学を行い、その要点をパンフレットにして見学时持参するといった形式にすれば、理解度も、関心度も上がるものと思っています。
- ・ ☒ プロジェクターの利用は環境学習だけでなく、私たちエコINNくろせの会議等にも有効利用して行きます。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・ ☒ 便利が良いからとの理由で導入したプロジェクター、スクリーンは、実際に使ってみて、いろんな方面での活用がある事が分かりました。今後、効果的な用途を考え有効的に利用して行きたい。
- ・ ☒ パワーポイント作成、写真編集等の技術も必要であり、研鑽して行きたい。

活動名	団体名	太田川アクティブアーチ実行委員会
	地域	広島県山県郡
	代表者	代表 林 俊一
	支援金額	35万円
活動概要 団体の沿革：(設立年、組織、構成人員等) 【経緯】 2004年 「太田川クラフトフェスタ」太田川上流域の工房4ヶ所でスタート。(同日開催) 2005年 安芸太田町 川・森・文化・交流センターが主会場となり毎年開催。以後 広島市内や北広島町を含めて広域に展開。(5～12月) 2007年 広島市内のギャラリーと温井ダムをつないだ企画展。2009年 太田川流域に眠る「たたら製鉄」の紹介をスタート。 2011年 主催組織名の改革「太田川クラフトフェスタ」⇒「太田川アクティブアーチ」 クラフトフェスタの主会場を広島市佐伯区の湯来交流体験センターに移し、子供向けワークショップを拡充。 太田川流域のたたら製鉄をテーマにしたツーリズム＆ワークショップを広域連携によって実施。 【組織】 「太田川クラフトフェスタ実行委員会」 「三段峡たたらツーリズム宣言実行委員会」 実行委員7名 協力者および出展者50名 来場者約2,100名 協賛企業3社、後援 広島市 安芸太田町 北広島町 他 【運営】 イベントごとに実行委員会をたちあげ、柔軟な運営を方針としている。複数のブログを使つての情報発信。 ◆実施時期 2011年度 【三段峡たたらツーリズム宣言】6月3・4・5日 三段峡周辺 【太田川クラフトフェスタVOL・7】6月10・11・12日 湯来交流体験センター 【たたら森の仲間たち～夏休み子供企画】7月24日～8月14日 風炎窯 【たたら森の仲間たち～トライアルツアー】11月9・10日 吉水園、木炭車の館、温井ダム、奥滝山峡、大暮、三段峡など 【たたら森の仲間たち～木炭車の館】11月12・13日 木炭車の館 ◆参加人数 【三段峡たたらツーリズム宣言】参加40名 来場80名 【太田川クラフトフェスタVOL・7】参加40名 来場1,500名 【たたら森の仲間たち～夏休み子供企画】参加17名 【たたら森の仲間たち～トライアルツアー】参加6名 【たたら森の仲間たち～木炭車の館】参加3名 来場500名 参加総人員：2,156名		



たたら森の仲間たち～トライアルツアー
山県製鉄所大暮工場跡にて



太田川流域のたたら製鉄が気付かせてくれるサステイナブルストーリー「たたら森の仲間たち♪」



三段峡たたらツーリズム宣言にて



太田川クラフトフェスタVOL・7にて

◆実施に伴う効果

【三段峡たたらツーリズム宣言】

イベントが終わったのち、広島県が来年度から推進する教育旅行の誘致に向けて、関係者の視察を受けました。また安芸太田町が推進するヘルスツーリズムにおいて、地域文化プログラムとしての可能性を探っています。またワークショップに参加した大学生が、就職先として廃業中の加計の鍛冶屋館を希望し、町行政と調整中。森林共生と平和教育と製鉄をつなげることで、新たなツーリズムが展開できる理念が生まれた。

結果をもとに、たたら製鉄を実施している工業高校やモノツクリ企業の方々とお話しさせていただく機会が生まれ、新日鉄八幡からは「三段峡たたら森」への視察依頼があります。

【太田川クラフトフェスタ VOL・7】

今回から会場を移動しました。

施設が新しく運営も不慣れで、広島市の査察も重なり、指定管理者が大変心配をされました。

結果として何のトラブルもなく、おおむね子供向けワークショップも好評であり、

今後に向けて明るい状況。

【たたら森の仲間たち～夏休み子供企画】

参加者は少なかったのですが、皆さん半日は子供を川で遊ばせながら参加されましたので、湯来交流体験センターの協力で、次回はまた違ったアピールができそうです。

また大和ミュージアムと三段峡を高速道路でつないだ子供向けトライアルツアーを画策中。

【たたら森の仲間たち～トライアルツアー】

たたら製鉄をテーマとした周遊コースを設定し、福岡勤労山岳会のメンバーと実施。

外部からの指摘や感想をいただき、次回は内容やコースをブラッシュアップします。

来年、6月と11月には再度トライアルいたします。

予算があれば、講師として産業ツーリズムのガイドの方々、企業や学校の教育現場の方々に、参加依頼できる状況になっています。

【たたら森の仲間たち～木炭車の館】

廃校を利用した施設を始めて利用しました。木炭車の有効利用として産業&エネルギーの教育体験プログラムの可能性が生まれた。

たたら製鉄や筑豊石炭の資料、パネル、紙芝居を整えましたので、今後は水素などの資料を整えれば、魅力的なプログラムが作れます。

綺麗な教室ではないのですがレトロ感があり、都市住民には好評であり、

吉水園(鉄山師の庭園)に隣接しているところも、たたら製鉄でつながる要素がある。

本年度は、本当にたくさんの方々の協力をいただき、たくさんのネットワークが生まれたというのが率直な感想です

◆苦労した点

【予算】

本年度は有難いことに、結果として3カ所の財団からの助成をいただき、大きな成果が残せたと自負しています。しかし、今後に向けて何か生まれそうな状況下であっても、安定した資金はありません。各方面に協力を打診していますが、大きな変化は生まれていません。今しばらく助成金や協賛金に頼りながら、それに見合った活動を継続してゆきます。任意団体のほうが動き易いというメリットもありますので考えどころです。

【外部へのPR】

広島市広報誌、中国新聞、タウン誌、オリコミ、ブログ等、努力していますが、現在の所、来場者アンケートから収集した個人情報に向けて2,000通のDM郵送、各方面に向けてのチラシ配布が主要な広報ツールとなっています。

【参加者】

たたら製鉄はマニアックなところもあり、ツーリズムの形態がテラーメイド化する傾向の中で、どのような集客のあり方が良いのか悩むところです。

太田川クラフトフェスタは、参加者、来場者ともに安定しており、無理の無い運営を継続中。

夏休み子供企画の参加が少ないところ。

【地域の理解】

高齢化や人口減少や不景気で、地域があまりにも疲弊している。

太田川流域のたたら製鉄については、あまり一般に認知されていないが、眠っている歴史的事実があまりに大きい。

反面、感心を示された方々の驚きは大きい。

町行政に賛同者が結構いますが、合併後の裏事情で、動きにくい状況がある。

◆今後の課題・発展の方向性

たたら操業のワークショップは、毎年開催するには歴史村の負担が大きく、数年おきに協力いただく予定です。また地域住民の中から実施する機運を待ちたいところ。次年度に向けて、生まれたネットワークをさらに広げ継続するために、広域的なフォトコンテスト&スタンプラリーを実施します。三段峡たたらツーリズム宣言の理念を各方面にPRするのが一番の目的です。さらに、成果としての写真を、紙芝居やポストカードに活用し、ツーリズムガイドのツールとして利用したいところ。また、専門家を招聘したトライアルツアーを実施し、広島県主導の教育旅行の誘致、安芸太田町主導のヘルスツーリズムのお役に立てればと思います。現在、協議会に参加しています。

◆活動を終えての感想・意見等

楽しさと苦しさが同居した運営ですが、眠っている大きな宝を発信するのが使命。

活 動 名	団 体 名	夢配達人プロジェクト 玖島実行委員会
手作りの紙人形劇(ペープサート)を通じて 地域を元気にする	地 域	広島県廿日市市
	代 表 者	会長 清水 透
	支援金額	20万円
活動概要		
廿日市市立玖島小学校2年生が、国語の授業で取り組んだ紙人形劇からその楽しさ、心に感じたことを日頃お世話になっている地域の方々に披露し、地域全体が元気になってもらおうという活動です。 またこの取り組みは、夢配達人プロジェクト事業として青少年育成県民会議で採用され、物語の作成には絵本作家の宮西達也さん、紙人形劇の制作、実技指導には山下義文さん(劇団かかし座)などを専門家に指導してもらい、学校及び地域ぐるみでこの夢を実現していくものです。 今後も、地域の集会所や養護施設などで公演を続ける予定です。		
◆実施時期		
2011年4月1日～2012年3月31日		
玖島小学校及び地域の集会所		
◆参加人数		
玖島小学校児童40名 玖島小学校教職員8名		
実行委員会23名 児童保護者(PTA)50名		
学校でのワークショップ参加者 約120名 発表会参加者 約200名		
各集会所での参加者 約200名		
参加総人員:600名		



5月15日 宮西達也さんと一緒に



集会所公演に集まっていたいただいた地域のみなさん



集会所公演の舞台裏



第1回発表会の様子

◆実施に伴う効果

- ・☑学校での発表や地域の集会所での発表では、多くのみなさんに集まっていただき影絵劇を見ていただいた。1回だけでなく2回以上参加していただいた方もいらした。
多くの方が「感動しました。」と、子どもたちに惜しめない拍手と感謝やお礼の言葉をいただいた。
- ・☑学校の取り組みではなく、地域と一体となった実行委員会として活動したことで、多くの方の協力を得られた。
当初の目的である「手作りの紙人形(ペープサート)を通じて地域を元気にする」が十分に達成されたと考える。
- ・☑子どもの夢を実現する過程を通して、地域や各団体の「つながり」が深まった。

◆苦勞した点

- ・☑苦勞とはいえないが、お忙しい中この活動に積極的に関わっていただいた実行委員会のみなさんを始め多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にお世話になりました。
- ・☑宮西達也さんをお呼びする時、廿日市市民図書館など多くの人のお世話になりました。
- ・☑実行委員会を立ち上げ、三原市でのかかし座公演を鑑賞させていただいたり、東広島市の「この本大好きな会」へ訪問し研修に参加したりするなど、関係者との調整を行いました。

◆今後の課題・発展の方向性

地域の方からの「また来てほしい。」との声をうけ、来年度以降も影絵を学校として取組み、地域の声に応えていきたいと思えます。

2012年10月27日(土)には、県民文化センターにおいて今回の影絵劇を発表する予定です。

◆活動を終えての感想・意見等

多くの地域の方々にお世話になりました。ありがとうございました。

影絵劇をご覧いただいた多くの地域の方々が、涙を流していらしたことや、大変喜ばれていた。その姿をみた子どもたちだけでなく関わった全ての人が充実した達成感を持つことができた。このことは子どもたちのこれからにすばらしい力になると思えます。

はじめは、手探りの状態でしたが、宮西達也さんを廿日市市民図書館や「この本大好きな会」の朝川さんがつながりを作ってくださり、地域の方がかかし座の活動を紹介してくださったりするなど人と人のネットワークがどんどん広がり多くの方と「つながり」ができました。子どもたちにも地域の方にもそのことが大きな財産となりました。また、あきらめずに努力すれば夢は実現することを、大人も子どもも実感しました。

活 動 名	団 体 名	特定非営利活動法人みらい福山
	地 域	広島県福山市
	代 表 者	理事長 大元 光代
	支援金額	35万円
活動概要		
平和の大切さについて、かつて阿鼻叫喚の地獄を体験した県民・市民として、書き残された「福山空襲の記録」をもとに分かり易く朗読劇化し、子どもたちと共に読み・語り継ぐという世代間交流のステージづくりです。 公演10周年の記念として、関西芸術座より平和の語り部として一人芝居で活躍の小林泉さんを招き、子どもを含む一般公募市民と座員による「リーダーズシアター講座」を2回開催し指導を受け、小林さんと共に8月6日の本番公演とします		
◆実施時期 朗読劇 2011年8月6日(土) 14 :00～開演 広島県民文化センターふくやまホール リーダーズシアター講座 7月16・17日 リーデンローズ練習室にて		
◆参加人数 朗読劇400名 講座 31名		
参加総人員 約431名		



朗読劇「ムッチャンの歌が聞こえる」オープニングより
高校生と大学生による平和を願うメッセージ



「ムッチャンの歌が聞こえる」の一コマ
66年前の芦田川河原で遊ぶムッチャンと子どもたち



子どもたちの練習風景



♪届けましょう ここにいる私たちから 命と平和の尊さを

◆実施に伴う効果

10 年前の「みらい座」の立ち上げのきっかけは、2001年9月11日の同時多発テロ事件であった。

あのような悪夢のようなことが現実だったのであるから、私たちは誰かが二度と起こってはならないと思いつつも、何か不気味で不安で恐怖すら感じる毎日だったことを思い出す。案の定、私たちはその後、平和どころか地球上では報復の戦争・テロ・紛争など限らない殺し合いの年月を過ごしている。

私たちは、市民が体験した福山空襲の朗読劇であつたら平和の大切さがわかって貰えるだろうと「みらい座」を立ち上げ、「どうぞ子どもたちに夢と希望の持てる社会を」と平和の大切さについて語り部活動をしてきたのであるが、市民の心へは中々届かないもどかしさを感じ、気持ちの落ち込みも一度や二度ではなかった。

それが今年はどうしたことであろう。

みらい座については、

参加者も例年(280～300名)に比べ今回は会場も大きかったこともあるが400名が観て聞いて、アンケート集約も前年約40名から、今年は126名の「大変良かった・よかった」とコメントをもらうことが出来た。そして、小学生から「こどもの語りべになりたい」と言う言葉を聞くことが出来たのである。

また、会員からは、マツダ財団様のお名前の効果も大との声も出、それも有りと言った。

しかし、それだけではない。

伺よりも大きな力・やって良かったと思われたのは

取材に来られた新聞社から「まいた種が芽吹きだしましたね！」の言葉をもらったことである。

昨年から今年にかけての各紙のびんご版には、様々な団体や大学生の福山空襲の絵本・紙芝居・人形劇・朗読・体験談の一人語りなど、福山空襲にまつわる活動が、年々多く掲載されるようになった。それだけ「みらい座」が言って来た福山市の(市制95年)歴史の中で一番長い夜のこと「福山空襲」のことは風化させてはならないと浸透してきたということである。言い換えれば、新聞社も動かし、他団体・学校に大きな影響を与えてきていることに他ならないと私たちは思ってもいいのではないか。

地元新聞社からは、8/1、3、5、8と大小の記事掲載で支援をもらった。その上、社説にまで取り上げてもらい、大きな力をもらった。このことは、今後の活動への「道しるべ」と感じる事が出来た。

どんな形でもいい、「命の大切さ」「平和の大切さ」については、「黙っていてもダメ！」の意識が育っていると確信できた今年の公演であった。

出前講座依頼が今年も来ている。10月から忙しくなる日々が目に見え始める。

◆苦労した点

朗読劇の練習場所の確保・・・小学生、中高生、大学生そして大人というように各々担うべき朗読劇の中のやるべき個所が違うため、合同練習までの稽古は多忙な上、費用の掛からない練習場所の確保に大変である。

資金集め・・・苦労と言うより、いつも一生懸命である。

◆今後の課題・発展の方向性

課題

資金面である。

資金集めも年齢的に無理が来ている以上、まずそのことから考えなくてはならない。この舞台活動が、子どもたちとともに創造し行動する「いのちと平和の大切さ」の取り組みである以上、細く長く継続していく事業でもあると認識している。しかし、それをどのようにしていくかが大きな課題である。

発展の方向性

朗読者に高齢者が多くなったため、今年度初めて朗読劇公演の前に取り組み高校生・大学生に好評だった

「リーダーズシアター」のワークショップ講座に本格的に取り組み、若い朗読者の育成に着手する。

そしてこのことを、今後の「みらい座」事業の「いのちと平和の語りべ」として更なる活動の継続をすることで発展につなげることとする。

◆活動を終えての感想・意見等

観賞して下さった会場の皆さまには、10周年にふさわしい舞台であつたと感動の言葉をたくさんいただきホッとしたところです。

今年は、マツダ財団様のご支援で、資金の面で大きな心配もなく、思い切り10周年の記念の公演が出来ました。稽古中のどの顔も思いなしにはつらつとしていたように見えました。

これもマツダ財団様のお蔭であると、感謝してもしきれない程です。

ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

課題はありますが、やはりみんなの気持ちは、「みらい座」ならではの今までの活動を継続したいのが本音のようです。これからみんなで「知恵絞」です。

活 動 名	団 体 名	直美の部屋												
2011年度”直美の部屋”コンサート ～若い音楽家の育成・支援公演を、三原の街から！～	地 域	広島県三原市												
	代 表 者	会長 三好 フミコ												
	支援金額	16万円												
活動概要														
『みんなで三原を音楽の街に！！』 (1) 若い音楽家や、音楽家をを目指す青少年の育成と支援 (2) 地域のボランティアや子ども達と、若い音楽家が共に力を合わせて、三原の街を元気にする！ (3) 生の音楽で、うるおいのある街作り を目標に、地元(主に広島県在住または出身)のプロ音楽家が出演するコンサートを制作。 三原駅前サンシープラザ2階ホールを借りて、毎月1回定期的に開催。 ◆実施時期 三原市サンシープラザ (駅前) 2階 多目的ホール ◆参加人数 <table> <tr> <td>4月公演 130名、</td><td>5月公演 160名、</td><td>6月公演 100名</td></tr> <tr> <td>7月公演 110名、</td><td>8月公演 130名、</td><td>9月公演 170名</td></tr> <tr> <td>10月公演 110名、</td><td>11月公演 180名、</td><td>12月公演 150名</td></tr> <tr> <td>1月公演 140名、</td><td>2月公演 120名、</td><td>3月公演 130名</td></tr> </table> 参加総人員 1,630名			4月公演 130名、	5月公演 160名、	6月公演 100名	7月公演 110名、	8月公演 130名、	9月公演 170名	10月公演 110名、	11月公演 180名、	12月公演 150名	1月公演 140名、	2月公演 120名、	3月公演 130名
4月公演 130名、	5月公演 160名、	6月公演 100名												
7月公演 110名、	8月公演 130名、	9月公演 170名												
10月公演 110名、	11月公演 180名、	12月公演 150名												
1月公演 140名、	2月公演 120名、	3月公演 130名												



2011年9月27日 ハーモニカ&ピアノコンサート



2011年12月19日 クリスマスコンサート



2012年2月13日 バレンタインコンサート



2012年3月12日 女声コーラス

◆実施に伴う効果

- ・☑毎回100～180名の観客を集めました
⇒ まちづくりや駅前周辺活性化しているという点で、市や社会福祉協議会より感謝されています。
- ・☑幼稚園児、障がい者、ひとり暮らし高齢者等の観客を集客
⇒ コミュニティ形成の場を提供し、地域の人に喜ばれています。
- ・☑主に県内のアーティストに出演依頼
⇒ 地元や備後地区強いては、広島県・中国地方の若い演奏家の育成・支援の場を提供。
地元アーティストから、「『直美の部屋』に出演したい」との声をいただいています。
また地域のコンサートホールで同様のロビーコンサートが生まれました。

◆苦勞した点

- ・☑予算面 および 人材(運営スタッフ)の不足
切実に困っている点は、予算面です。
支出面では、平成17年の活動開始当初、出演者に対し「ノーギャラ」でしたが、徐々に楽器の維持費等の苦勞話等を聞き、現在は交通費・衣装クリーニング代程度を払っています。
また収入面におきましては平成19～21年度の3年間、三原市より助成金を受けていました。打ち切り後は、私達の力で会を維持していくため、個人・企業から賛助をしてもらえるよう会員を募っていますが、それだけではどうしても足りません。今年度は、貴団および赤い羽根共同募金の理解を得て、助成をいただきました。今後のより安定した収入に関して、模索、研究が必要と痛感しております。
- ・☑PR面に関して
幸運に恵まれ、HPの作成、チラシ・ポスターにて周知の徹底、月1回発行の市広報紙への掲載、地元CATVでの紹介(年に3回)、市の広報棚を利用させてもらい広報・報道機関に情報を無料提供し新聞の「お出かけガイド」欄に掲載される等、順調に運営出来ています。
また地域の皆さまに会の活動を覚えていただき、たとえ悪天候の際にも100名を超える来場者があり、多くの方々に喜んでいただいております。

◆今後の課題・発展の方向性

- 予算面において引き続き個人・団体賛助会員を募りながら、助成をしていただける理解ある団体を探していく所存です。
また方向性においては、2012年度から新しく活動に加える内容として、以下のふたつの準備を進めています。
- ①新企画“青春の芽シリーズ”
⇒音大生や、プロとして活動を始めたばかりの新人を招聘するコンサートの企画実施
 - ②三原の街が音楽によってさらに活気づくよう、病院・福祉施設等へ若い音楽家を紹介
⇒『橋渡し』役を担う
今後も、三原の街が音楽で元気になるよう、また若い音楽家たちが安心して地元三原を中心に活躍を続けて行けるよう支援、活動をしてまいります。

◆活動を終えての感想・意見等

おかげ様で、2012年3月12日(月)プティフルールコンサート(女声コーラス)をもちまして、2011年度の全ての公演を無事に終了することが出来ました。これも出演アーティストや多くの聴衆の方々、助成金等の応援をいただきました企業や団体の皆様からのご理解やご協力をいただいた結果と思っております。
今後も「直美の部屋」のコンセプト《みんなで三原を音楽の街に！》を大切にしながら、より良い公演開催を頑張っ

活動名	団体名	ロボカップジュニア広島ブロック保護者会
広島県内に於ける小中学生のロボット競技体験活動 (ロボカップジュニアに挑戦しよう！)	地域	広島県広島市
	代表者	代表 山野 真一
	支援金額	47万円
活動概要	こども達の知的好奇心を刺激し、科学への関心を高めて、次世代のエンジニアの卵を育む事を目的とする。教材として自律型ロボットを使用した競技を行なう中で、「現象の把握」から「仮説・検証」といった「問題解決」のプロセスを楽しみながら学べる場を提供してゆく活動であり、以下の活動を実施する。 ・自律型ロボットを使ったサッカー、レスキュー競技を体験する場を設ける。 ・希望者には2012年のロボカップジュニア出場に向けた活動の場も提供する。 〈広島予選2011年12月全国大会3月〉 ◆実施時期 2011年4月1日～2012年3月20日 広島県内:広島地区 広島市こども文化科学館、広島市青少年センター、可部公民館 福山地区 福山大学、福山大学地域連携研究推進センター ◆参加人数 ロボカップ体験会7月18日(こども文化科学館)40名 ロボット体験教室8月23日(可部公民館) 34名 ロボカップ体験会10月16日(福山大学)40名 ロボカップジュニア広島大会50名 ロボカップ練習会延べ120名 参加総人員 284名	



仮説・検証プロセスの体験
ロボカップジュニア体験会にて



サッカーロボットのプログラミング
ロボット体験教室にて



広島ブロック大会



ジャパンオープン広島ブロック代表選出
サッカー競技

◆実施に伴う効果

・体験会

参加者から収集したアンケートの結果、「たのしかった」「もっとやりたい」という感想を多く得た。また、保護者からのアンケートでは、「考えさせるプロセスがよい」「こういった場をもっと設けて欲しい」「礼儀を重んずるところがよい」といった肯定的な見解を得た。

・競技会

「本気で取り組む」という点に於いて、保護者から非常に好評を得た。特に「競技中は保護者と隔離した環境に置く事で、自立性と問題解決力を育む」という点について好評であった。

(初めて参加=度胸と自立性が育まれる、2回目以降=段取り力が育まれる)

※6チームを3/末に行なわれるジャパンオープン出場者として選定した。

(ジャパンオープンホームページURL <http://amarobo-jr.net/>)

◆苦勞した点

①広報活動

体験会のチラシを広島市内/福山市内の各小中校に配布する際、「配送」に苦慮した。

広島市は市役所に「ポスト」が設けてあり、市教委の協力の下、これを使わせて頂いた。

しかし、福山市内には各校に直接郵送するしか手が無く、印刷費よりも配送費の方が高くつくという結果となった。(今後、安芸郡やその他地域にも配布しようとしたとき、大きな課題である。)

②募集の受付

広島での体験会募集時、枠に対し4倍の応募があった。(40名の枠に160名)この際、ホームページのフォームとfax.(ブロック長自宅)での受付とし、質問事項はブロック長自宅の電話とした。

このとき、保護者からの注文(時にはクレーム)が殺到し、精神的負担が非常に大きかった。

これを教訓とし、福山の体験会からはホームページのフォームのみの受付とし、質問もメールのみとした。

また当選連絡は「ハガキ」とし、当日これを持参する事で受け付ける事とした。

※ロボカップジュニア広島ブロックのホームページは以下

URL <http://rcjj-hiroshima.com/>。

◆今後の課題・発展の方向性

①こども達のモチベート

毎年、「体験会に参加し、県内予選に出るが、敗退してそこで辞めてしまう」という子が多い。勝ちあがるチームは「続ける」から強いのであるが、保護者含めて多くがそこに至らない。(ジャパンオープンの数居も上がっているが、他国では国や公的機関がバックアップするなど、レベルアップが著しく特別な事ではない。<軍や企業がバックアップする国もある>)こういった背景から、モチベート策として「地方規模での小さな大会」のニーズが全国的に挙がってきている。

広島ブロックは全国で1,2を争う小規模な競技人口である。しかし、他県の子達との交流の場を持ち、「輪」が広がれば、モチベーションも上がるものと考ええる。(保護者含め)

よって、来期は5月に「せとうちオープン」として大会を開催する様調整を進めている。

(四国ブロック、岡山ブロック、九州ブロックに打診すると共に、会場として福山大学と調整を進めている。)

②備品の管理(置き場)

サッカーフィールドとロボット14台、パソコン10台、その他競技備品の置き場に苦慮している。現在はブロック長宅の倉庫に置いているが、大きな負担となっている。

◆活動を終えての感想・意見等

「想いはなかなか伝わらない」というのが、ここ数年運営してみても感想です。こども達は「面白い」と思っても、継続するには「保護者の価値観」がキーになります。ロボカップは「問題解決力=技術の源」を養う競技です。続けないと効果が出ないのですが、ここを伝え切れていないところが課題です。(他の地域の様に、大学教授や科学館の学芸員さんが語るのなら伝わるのですが、)

今年になって、ようやく科学館さんが「来年は回を増やしましょうか?」と日程確保に動いてくださいました。続ける事で少し「伝わってきた」ようです。

「ちいさなエンジニア」の育成に多大なるご助力を頂き、ありがとうございました。

技術のバトンを次の世代に渡すべく、頑張ってゆきますので、今後ともよろしくお願い致します。

活動名	永慶寺川の多様な自然を守り、育てる活動 (環境美化とほたるを守り育てる活動)	団 体 名	永慶寺川の自然を守る会
		地 域	広島県廿日市市
		代 表 者	代表 山本 満彦
		支援金額	25万円
活動概要			
永慶寺川はふるさと大野を流れる3.62kmの2級河川である。昔から豊かな大野の田園地帯の農業用水として、またくらしの潤いと安らぎをもたらしてきました。このような永慶寺川を愛する人たちが集い、豊かな自然を守り、美しい景観づくりと魅力を育てることを目的に次のような活動を行った。 ①☑自然観察と川の生き物調査 ②☑ホタル教室の開催(こどもと地域と家族の連携) ③☑河川の美化活動(アジサイの育苗と犬の糞標識の設置) ④☑河川堤防の草刈り、雑木の伐採と河川内の清掃 ⑤☑広報のため、HPの立ち上げと運営管理 ⑥☑NPO法人おおの風の定期通信にAKGいいとも隊の活動を掲載。 ◆実施時期 平成23年4月1日～平成24年3月31日 廿日市市大野地区 永慶寺川(高見～別府～知安～池田) ◆参加人数 ①ホタル教室 126名 ②大野東小学校総合学習支援 134名 ③アジサイクラブ 17名 参加総人員 277名			



AKGいいとも草刈隊・知安地区



大野東小学校・総合学習4年生
永慶寺川の清掃活動



ホタル教室・親ホタル採取



ホタル教室・生きもの調査の調べ学習

◆実施に伴う効果

- ① ☒ ふるさとの河川の自然に関心を持ってもらうことができた
- ② ☒ ホタル教室を通して、河川環境の保全に関心が高めることができた。地域の協力者、指導員、環境サポーターなどの連帯した協力で、ホタル家族を支援することが出来ました
- ③ ☒ 子どもたちには、ホタルの幼虫観察を通じて、ホタルの棲める環境づくりに関心が高めることができた
- ④ ☒ 河川の清掃を小学校の環境学習の実践体験として、支援を行った。小学校4年生123名。
- ⑤ ☒ 河川内から拾い上げた、ごみの分別を行いました。どうすれば、ごみを捨てなくなるか一緒に考えました。
- ⑥ ☒ 堤防の草刈りおよび河川内の清掃活動を広島県のアダプト制度に登録して、年間の管理を行い、それと連動した形で、
☒ アジサイを植栽するために、育苗を行った。地域の方々に協力していただけた
- ⑦ ☒ 上記の作業に関連して、廿日市市役所および広島県との協議を行い、自然にやさしい川づくりの話し合いを行うことが出来ました。
- ⑧ ☒ さらに、地域団体も、河川管理の手法としてのアダプト制度への認定をしようとする動きが見られました。

◆苦勞した点

- ・ ☒ 本活動の予算について： マツダ財団の助成により、大変助かりました
- ・ ☒ 外部へのPRについて： ホタル教室は、大野東小学校の4年生を対象に、学校長と学年担任にご協力を得て、説明しました。子供たち自身の意欲で自主的な参加を求めました。また、一般には、公民館や集会所などの掲示板に掲示して、PRをしました。また、西広島タイムス(地域のフリーペーパー)に記事および募集の要項を掲載しました
- ・ ☒ 参加者について： 会員の参加及びホタル家族の参加は、芳しくはありませんが初年度として、私たちの実力にふさわしいものであると感じています。今度の活動が広く知られるようになれば、ぼつぼつ増えてくるものと期待しています。
- ・ ☒ 地域理解について： 全てが、認容してくれているとは思っていませんが、活動の実態を見られて、理解が進むものと思っています。ただ、声なき声が届いてくることがあります。AKGいいとも隊の活動そのものを「よくやってるな」、「いいことだな」とかの噂ですが、ふるさとの川への関心が高まるのが目的ですので、今まで、気にも留めなかった川に再認識してもらえるよう今後も、継続して活動することが必要と考えています。
- ・ ☒ その他： 広島県のアダプト活動団体として認定していただきましたので、廿日市市との連携が取れるようになったことはよかったと感じています。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ ☒ AKGいいとも隊の会員を増やすことと、実活動への参画を促す仕掛けを打つ必要があると感じています
- ・ ☒ ホタルの育成のために、平成24年度はミニビオトープと大型施設をつくる予定ですが、河川周辺の土地に、自然観察とホタル飼育用のビオトープの設置ができることが最適なのですが、土地や利水権の問題があり、そう簡単には確保できないと考えています
- ・ ☒ 継続的な活動のためには、行政とのタイアップは続けてゆきたい
- ・ ☒ 地域団体(大野では、区制度)との連携は、河川管理の範囲を分担することで協働している。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・ ☒ 継続的活動のモチベーションをどのように保ってゆくか？仲間づくりに苦勞しそうです。
- ・ ☒ 今後は、地域全体が連帯して、永慶寺川の全線にわたって、管理するような、AKGいいとも隊連合会(アダプト)のようなものができると、地域一体として、ふるさとの河川管理と環境保全の運動に結びつくものと考えている。従来は、県が管理し、洪水の防御や堤防の保全を行ってもらって、自分たちは利水権を主張するばかりで、排水のたれながし、ごみの廃棄、雑草の繁茂など、自分たちの川の意識がなかったように思います。意識の変化が起こるようになれば、最高の喜びです。

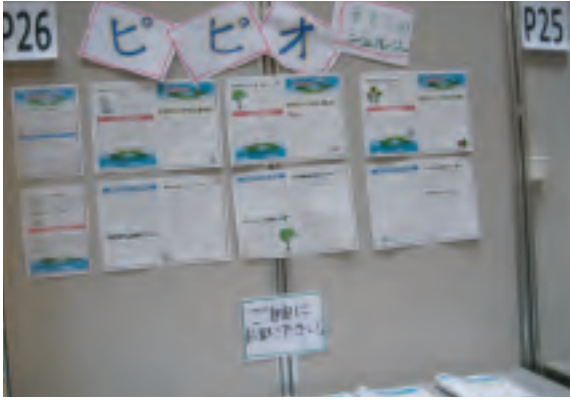
活動名	団体名	ピピオ子どもセンター
	地域	広島県広島市
	代表者	理事長 鶴野 一郎
	支援金額	50万円
子どもシェルターの開設・運営		
活動概要		
保護者等から虐待等を受けた子どもたちを受け入れるための子どものシェルターを開設・運営し、居場所のない子どもたちに避難する場所を提供する。 シェルターでは、子どもたちに安心して食事がとれて、ゆっくり眠ることができる場を提供し、必要に応じて医療機関等とも連携し、子どもたちが次に進む方向を自ら見つけられる力を取り戻せるように、支援と見守りを行う。 1 子どものシェルターの運営 ①子どもが入居する際に、最低2名の弁護士が立ち会いのもと、入居の意思を確認する ②入居する子どもには担当弁護士をつけ、親権者などとの調整やシェルターを出た後の行き先の調整をおこなう ③子どもの安全を守るため、シェルターの場所は非公開となっている ④進学希望などがあれば学習支援を行い、就職したいという希望があれば担当弁護士と相談しながら就職支援を行う ⑤シェルターには、常勤スタッフとボランティアスタッフがおり、入居している子どもたちが家庭的な雰囲気の中で安心して食事がとれてゆっくり眠ることができる場所を提供している ⑥子どもたちの状況やシェルターの状況を把握するために、毎月スタッフ会議やケース会議を行っている ⑦退去先の調整が整ったら退居となる ※入居の期間は、緊急避難先という性質上、約2ヶ月間までを目安としている 2 自立援助ホームの開設準備 シェルター退所後の子どもたちや自立の途上にある子どもたちが、働きながら自立を目指して一定期間滞在できる自立援助ホームの開設を目指し、準備会を開催した 3 その他の活動 ①ニュースレターを3回発行 ②理事会、事務局会議、ケース会議を毎月開催 ③スタッフやボランティアスタッフ、子ども担当弁護士のスキルアップを図るため、研修会等に参加 ④広島弁護士会主催の子どもの日記念イベントの後援 ◆実施時期 2011年4月1日～2012年3月31日		



ピピオの家



ピピオの家



JaSPCANいばらき大会参加



「子どもの日記念イベント」の劇

◆実施に伴う効果

平成23年4月に「ピピオの家」を開所してから現在まで、延べ13名の子どもがピピオの家を利用した。入居者が途切れることはほとんどなく、定員のため、子どもの受入れを断念せざるを得ないこともあり、子どものシェルターのニーズの高さ、高齢児の居場所づくりのさらなる体制強化の必要性を痛感している。

子どもたちが「ピピオの家」を利用している期間中に、家族との関係が改善できたり、進学や就職できたりしたケースがあった。また、入居者にあわせた学習支援を行い、子どものやる気が向上するなど効果があがった。

◆苦労した点

- ・☒家庭環境が改善できて家庭に帰れる子どもは入居者の半分にも満たない状況である。家庭に帰ることができない子どもたちに関しては、里親や住み込み就労先を探すなどしているが、その数は限られており、容易に見つからない状況である。ピピオの家を出た後の子どもたちの行き場が非常に限られている。
- ・☒入居相談があっても、定員のため、入居を断ることが何度かあった。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・☒平成24年度に、ボランティアスタッフの募集・養成講座を開催する予定である。今回、募集案内をする際には、ボランティアやシェルターなどに関心のある一般の方に参加を呼びかけることが重要と考えている。
- ・☒平成24年度から「ピピオの家」を女子専用のシェルターに変更した。あわせて、男子用の自立援助ホームの設立を目指す。

◆活動を終えての感想・意見等

子どものシェルターを開所して、シェルターのニーズの高さ、また外部の方々へ子どもたちの実情を知ってもらうことの重要性を改めて痛感した。

活 動 名	団 体 名	(財)日本ダウン症協会広島支部 えんぜるふいっしゅ
	地 域	広島県広島市
	代 表 者	会長 廣瀬 祥子
	支援金額	20万円
活動概要		
(財)日本ダウン症協会 第4回中国ブロック大会として開催しました。ダウン症候群の子どもを持つ家族が、広島に集まり、交流を深め、情報交換をしました。 大会開会式、基調講演、分科会、懇親会を行いました。ダウン症の本人たち、兄弟姉妹たちはボランティアの方と、お好み焼き体験、スポーツ、アート活動、ヘルマンハーブの体験会を楽しみました。 以前、マツダ財団様に支援していただいた「職場体験実習」の活動報告も他県の方にお伝えすることができました。 ◆実施時期 平成23年7月16日(土)～7月17日(日) 広島ガーデンパレス 広島市心身障害者福祉センター ◆参加人数 参加家族107のうちダウン症本人80名 ボランティア延べ42名 参加総人員 248名		



中国ブロック大会・開会式



ヘルマンハーブ体験会



本人活動・トランポピクス



職場体験実習報告会

◆実施に伴う効果

- ・☑たくさんのボランティアの方にご協力いただきました。ダウン症の本人との活動は初めてだったが、楽しかった、また参加したいという声をたくさん聞きました。
- ・☑大会参加にされた方々で、えんぜるふいっしゅの正会員、賛助会員に入会してくださり、嬉しいことでした。(他県)
- ・☑職場体験実習の報告会が好評でした。他県の参加者が参考にしたいと感想を述べられました。

◆苦勞した点

- ・☑ボランティアの確保・・・開催日数日前までに、必要人数が集まらず、いろいろなところにお願いしました。確実に決まるまでボランティア担当はやきもきしました。
- ・☑参加人数について・・・会場の予約の手違いで、大きな部屋が借りられず、参加者をお断りするようになったのが、残念でした。会員以外の方にも、もっと多く参加できるようにしたかったので、確認作業の徹底が必要でした。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・☑ボランティアとして、多くの方が大会参加してくださり、ダウン症の本人と共に時間を過ごしてもらえたのですが、講演会、懇親会などにも、一般の方が参加しやすいように、会場設定やPRなど工夫が必要だと思いました。
- ・☑今回の大会を通じて、新しい人脈を得ることができました。そこから、新しい活動に発展していくのでは・・・と期待しています。

◆活動を終えての感想・意見等

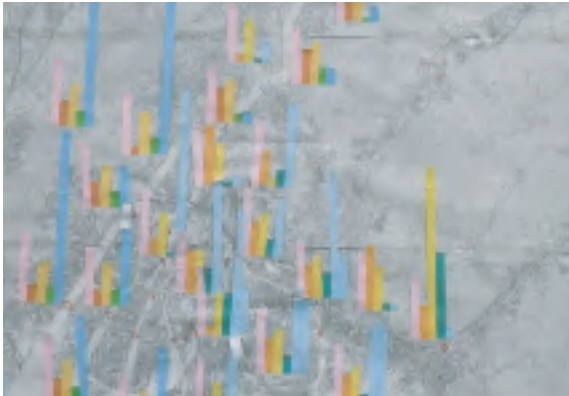
参加して下さった多くの方が、えんぜるふいっしゅは、多くの方からの支援、助成、を受けられているんですね、と感心されていました。私たちの活動にご支援いただいて、本当にありがとうございました。

始めはどうなることか・・・と心配ばかりでしたが、当日のダウン症の子どもたちや保護者の皆さんの笑顔に助けられ、無事に大会の全プログラムを終了することができました。

活動名	団体名	高校生環境ネットワーク広島
	地域	広島県山県郡
	代表者	代表 竹本 伸
	支援金額	35万円
活動概要		
「高校生環境ネットワーク広島」は、参加する高校生が広島の問題について様々な角度から研究することを通して、地域の環境を理解し広島という土地への愛着をより深めるとともに、「環境」をキーワードに学校をこえてつながっていくことで、広島における若者の自主的な活動の輪を広げていくことを目的として活動している。 2011年度は「太田川」をテーマに募集したところ、第1回に集まった高校生から「太田川を直に感じてみたい」という意見が多数出されたため太田川のカヌー体験を実施した。その結果、参加した高校生の多くが川の水質について強い関心を持ったので、今年度は水質調査を中心とした活動を行った。2回にわたり採水を行いその水質分析を行った後、講師を招いて水質分析の結果の数値をどう読み取りどうまとめればいいのかについて、講義とアドバイスをいただいた。それらの調査結果と分析、さらに1年間の活動を通して感じたこと等を「太田川学研究」として報告書にまとめた。 ◆実施時期 2011年4月～2012年3月 太田川流域・広島市市役所会議室・広島市内公民館・広島市立工業高校等 ◆参加人数 高校生 15名、 各校指導者 2名、 広島市地球温暖化対策地域協議会教育・学習ワーキンググループ 5名 参加総人員 22名		



河川水の採水の様子



太田川の水質分析値を地図上でグラフ化
(2012年1月実施分)



水質分析風景



太田川カヌー体験

◆実施に伴う効果

- ① 高校生が自主的に活動内容を決め行動する事業であったため、高校生自身がいろいろと工夫や意見を出すことで、自主性や環境への興味・関心が大いに高まった。
- ② 高校生にとって、クラブ活動以外で他校の生徒と一緒に活動するという機会はあまりないため学校をこえた交流や互いのいい刺激につながった。
- ③ あるメンバーが、水の採水中に太田川漁協の方から声をかけられ、活動内容を説明したところ、「若い人たちが太田川に関心を持ってくれることは大変うれしい。報告書ができたらぜひ送ってほしい。漁協としても何かあれば協力したい。」と言われた。この調査をきっかけに、この活動が地域の方々と連携していけるようになれば、太田川等身近な地域の環境問題に対して、より多くの人に関心をもってもらえるようになるのではないかと考えている。

◆苦労した点

- ① ☒ 広島市内及び近郊の高校に案内を配布して活動のPR・メンバーの募集を行ったが、学校への案内は生徒達の目に触れるところまで届くことがあまりなかったようで、結果的には昨年度から活動しているメンバーやその後輩が中心となった。このような学校をこえた高校生の活動についてPRの難しさを痛感した。今後、こうした活動の輪を広げていくために、活動の社会的認知度をどう上げていくか、その効果的な手法の構築が大きな課題である。
- ② ☒ 学校によって行事予定が違うため合同で集まれる日が限られており、日程調整が大変難しかった(基本的には土曜日を活用した活動を考えていたが、広島市内の私立高校は土日も授業を行っているところが少なくない。)
- ③ ☒ 先例のあまりない活動であることと前述のような理由で日程調整が難しかったため、報告書の作成方法・内容に苦慮し、調査してから報告書の完成までかなり時間がかかった。

◆今後の課題・発展の方向性

- ① ☒ 前述の「苦労した点」でふれているように、どのようなPRを行って活動メンバーを増やしていくか、特に、もっと多くの学校を巻き込んでいくためにはどのような方法が有効であるか、それがもっとも大きな課題である。
- ② ☒ 「森は海の恋人」という言葉にもあるように、自然は全てつながっている。森と海をつなぐものがまさに川であり、特に広島の場合は、地域の代表的な産業である牡蠣養殖業の発展にとっても、欠かすことのできない重要な自然的背景となっている。それらのことを考えた場合、環境問題として地域の川を研究することは、自然のみならず産業や住民の生活など全てにつながっているという意味において、地域を総合的に見ていくキーワードになるうる対象であり、研究テーマを様々な方向に発展させていくことができると考えている。
- ③ ☒ 高校生が共通の関心のあるテーマについて、学校の枠を超えて集まり活動していくというこのような教育活動は、日本ではまだあまり見られない方法であるが、青少年の社会教育活動のスタイルとして、今後の新しいモデルになり得るのではないかと考えている。現在は、このようなやり方が社会に定着していないが故に様々なハードルがあるが、その一つひとつを具体的に整理する中で、このような新しい形の教育活動を少しずつ広げていきたいと考えている。

◆活動を終えての感想・意見等

- ① ☒ 報告書の作成にかなり手間取ったため、2012年度はマツダ財団への助成申請が間に合わなかった。我々のような学校をこえた活動は予算的な裏付けがないため、貴財団の支援事業は大変ありがたいものであったが手前味噌であるが、貴財団の青少年育成事業の中でも青少年が自ら自主的に活動するという我々のような事業はそれほど多くないので、次年度以降はもう少し活動を計画的に行い、来年度以降、また助成申請をさせていただきたいと思っている。
- ② ☒ 当初スタッフが考えていた「太田川学研究」は、様々な講義を受けたり文献等を高校生が自分たちなりに理解してまとめていくようなものと考えていたが、「川を実際に肌で感じたい。」という高校生の声を受けてカヌー体験を行った。この体験がメンバーにとって、太田川をより身近に感じ、高校生なりの自分の感性で太田川に向き合うきっかけになった。頭であれこれ考えるより、まず体験してみることが何よりも大事だということを学んだという意味において、大人のスタッフ自身も大変勉強になった。

活 動 名	団 体 名	よしじま職人工房
	地 域	広島県広島市
	代 表 者	代表 安田 茂
	支援金額	25万円
吉島地域の町職人と留学生が連携した「小学生のための物づくり体験」		
活動概要	ほしいものが苦勞せずに安価に手に入る現在、大人も子供も物を作りだす力がどんどん弱くなっております。 吉島地域には色々な製造業者があり、そこに従事されている匠や、これまで従事したものの現在は老後を楽しんでおられる匠が多くおられます。 その町職人と小学生とが連携し、通常、小学校では出来ない「ものづくり」を楽しく体験したり、科学に触れたりすることにより、小学生が創造性、自主性、協調性を培い、ひいては理科好きになること、更に留学生との連携により物づくりを通して外国の文化に触れることにより、将来、国際感覚を身に付けた「ものづくり広島」を担う人材づくりを支援する活動です。 ◆実施時期 2011.6.11～2011.10.9 吉島公民館他 ◆参加人数 主な参加者 ・吉島小学校、吉島東小学校、中島小学校ほか生徒 ・中原表具工芸社、三村松、(財)広島市平和文化センター広島市留学生会館留学生 参加総人員 301名	



マイ箸づくりでは、箸削りの前に、プロから工具の説明を受ける



工具を使って楽器(カリンバ)を組み立てる



自分たちで大豆から作った豆腐を試食！



製作を通じてスリランカの留学生と交流

◆実施に伴う効果

地域社会に与えた影響

- ①協力各企業は前回と同じ企業になってしまった。その理由として、子供達が作って喜ぶものを第一に考えて見たところ、その物にマッチした企業が無かったので、スタッフが試行錯誤して試作品を作り、指導者にもなったのが実情です。今後はもう少し企業めぐりなどして、何が作れるか検討していきたいと思っています。
- ②地元の社会福祉協議会や町内会から工房の存在を知って頂き、お年寄りにマイ箸づくりをしてほしいとか、小学校で教えてほしいなどの要望があるなど、地域に少しながらも密着してきたように感じている。

子どもたちに与えた影響

- ①昨年に比べ、本当にものづくりが好きで真面目に取り組む子供達が参加してくれて、スタッフもやりがいがあった。
- ②どのプログラムでも大変喜んでくれたことから、ものづくりを担う子供達の育成に多少なりとも貢献できたものと思っています。

◆苦労した点

子供達が喜んで楽しくものづくりをするテーマ

22年度で失敗したのは、一部大人の感覚でものづくりのプログラムを作ったことから、参加者が少なかった、喜んで作っていなかったことがあり、その失敗を反省し、子供達が喜んで楽しくものづくり出来るものに拘りました。具体的には、完成した後、持ち帰って、「家族に誇れるもの」、「遊べるもの」、「常に使えるもの」、「食べることのできるもの」にすると、とても喜んで作っている姿を見ることができました。今回の、箸、カリンバ、豆腐、アクセサリー、紙飛行機はいずれも該当するものでした。今後も喜ぶものを探しながら活動を広めていきたいと思っています。

地元企業との連携

地元企業は多種多様にあるものの、子供達が喜ぶものと一致する企業が少ないことが分かりました。よって、今回はスタッフがそのつくり方を勉強し試作して、指導したものが多くなりました。

スタッフの参加

スタッフのメンバーの殆どが仕事を持っていることから、多く集まる日と2人しかいなかった日とあり、スタッフの増員や充実が課題となっています。

留学生の参加

留学生会館と連携し、2回留学生と外国の文化に触れる機会があり、子供達は喜んでいました。しかし、当初考えていた留学生に祖国のおもちゃや楽器のつくり方や遊び方を指導してもらう予定でしたが、日本の学生と同じように、コンピューターゲームは出来ても、ものづくりも遊び方も出来ない実態を知りました。そうしたことから、スタッフがインターネットなどから形を見て、試行錯誤してカリンバを作ったのが実情です。

◆今後の課題・発展の方向性

今後の方向性

少しずつ吉島地域にも認められ、活動がやっと根付いてきたところです。今後、地元企業・学校・公民館・留学生会館などと更に関係を密にして、活動の継続と発展を期したいと考えております。

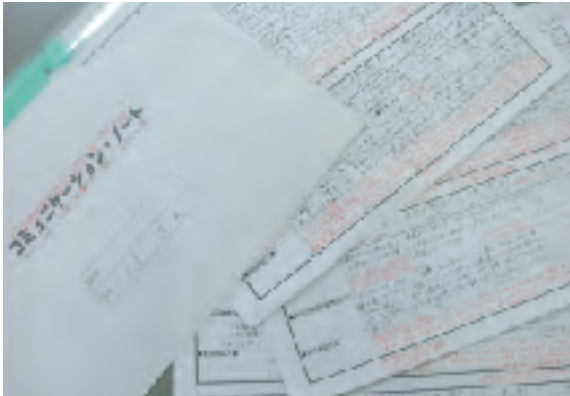
課題

事業を継続するためには、スタッフにとって地域貢献している実感と喜びを受けることの出来るように、報道関係へのPR、ホームページや活動冊子でのPRをしていく必要があると考えています。また、今後は活動資金を如何にするかも大きな課題です。

◆活動を終えての感想・意見等

この活動は、財団法人マツダ財団様のご支援を頂いたから出来たものであり、厚く御礼申し上げます。また、関係各企業の協力を得ながら、事故もなく予定のスケジュールをこなせたことを感謝いたします。

活 動 名	団 体 名	ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART
	地 域	広島県広島市
	代 表 者	代表 中倉 勇
	支援金額	39万円
NP0・NGO ユース・インターン・プログラム(YIP)		
活動概要	高校生～大学院生、もしくはその年代(概ね35歳ぐらいまで)の若者に、「インターン(実習生)」として、一定期間(短期/長期)、市民活動団体の活動に参加してもらうプログラムです。若者のボランティア活動への参加を増やすことで、市民活動の裾野を拡大し、同時に市民活動を経験することによって、若者がやりがいに気づき、自分の将来に活かしてもらう学習の場づくりが目的です。 結果として、長期にわたるインターンは1名(約9ヶ月)、短期間のボランティアとして10名の計11名(複数の活動に参加しているため、延べ16名)が、4つの市民活動団体が実施した6つのプロジェクトで活動しました。 終了後には感想文をまとめたリーフレットを作成し、現在、配布中です。また、次年度以降も若者のインターン・ボランティア活動を促すため、WEB上で「ちょいボラNEWS」を公開し、若者が自発的に関われる環境を作りました。 ◆実施時期 実施期間:2011年6月1日～2012年3月31日 場 所:ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART内 及びイベント会場(3箇所) ◆参加人数 長期インターン:30歳代女性1名 ボランティア :30歳代男性10名、20歳代男性1名、女性4名 ※学生2名、フリーター13名、企業人1名 参加総人員 16名	



インターンと受け入れ担当者をつなぐ「コミュニケーション・ノート」。これが信頼の絆を深めます



インターンの教訓:①他団体を知るには、実際の活動に参加すること!②体力が要る!



東北支援の街頭募金、寒空の下、心はホットでした!



インターン、ボランティアの熱い思いが詰まったリーフレット、是非読んでください!!

◆実施に伴う効果

長期インターンについては、一人のフリーターが社会参画の第一歩を踏み出せるところまで、気持ちを引き上げることができたことはとても大きな効果だといえます。また、受け入れたHEART to HEARTも、これまでの大学生や一般社会人のボランティアやインターンに比べると、時間もかかり手間もかかりましたが、それでも当事者の気持ちに寄り添うことができれば人は育つことを実証できたと感じています。これをもとに、インターンの受け入れ方についてのノウハウを関心あるNPOと共有できる場を設けたいと思います。

また、前項目で述べたように、学生でもフリーターでもインターンやボランティア活動に参加しようとする若者の多くは真面目にきちんと行動できるため、実際に受け入れた団体からの評価が高いです。若者の起用をためらう市民団体は多いと思いますが、この成果が広島のお舗と言われる市民団体にも活かせるようになれば、団体の存続にもつながると思います。

今回作成したリーフレットからも読み取れますが、参加した若者たちが各々それなりの達成感を味わっているということも大きな効果の一つです。それには受け入れ団体の準備も大変だったはずですが(HEART to HEARTも大変でした!)、一度受け入れて上手くいけば、次からは受け入れがさらにスムーズに進むであろうと期待しています。

また、大学の先生や職員さんがこのリーフレットをお読みになったうえで、学内に置いてくださっています(現時点で2校)。同時に、若者交流館でも好評で、大量に置いてくださり、次の受け入れ情報を待っておられるとのこと。「このプロジェクトは継続するしかない!」と、大きな手応えを感じています。

◆苦労した点

①インターン受け入れ団体数の伸び悩み

インターンを受け入れる団体を探すのに、まずひと苦労しました。NPOの世界でも「インターン」はだいぶ浸透してきていると思っていますが、それは首都圏もしくはNPOに関するゼミや専門科目を持つ大学が多数存在するエリアに限られていることであり、広島では時期尚早なのかもしれません。受け入れをお願いするにあたり、「インターンとボランティアの違いがわからない」、「ボランティアでも人は育つ」という声もあり、インターンの必要性や重要性を説くことから始めなければいけないということを感じました。

②大学生へのボランティア活動PR不足

大学に参加者募集をお願いしても、学外の活動のため、積極的なPRは難しく、掲示してもらえるのがやっとというのが現状です。学生に直接情報が届く方法をもっと探るべきだったと猛省しています。

◆今後の課題・発展の方向性

I) 上記①の解決策

「NPOでインターン」「NPOでインターンを受け入れる」これらを事例などで説明できるものがが必要です。同じ説明を何度もするよりは、ツールにまとめるということです。それには、今回のプログラムでわからないと言われた団体をモニターとして、簡単なツールの叩き台をチェックしていただく、という作業を行い、誰にでも効率良く理解していただけるツールを作成しておくことにトライしてみようと思います。

II) 上記②の解決策

今回作成した「リーフレット」が最大の武器になると思います。既に、HEART to HEARTを訪れた学生に配布したところ反応もよく、学内で配布するといって多少持ち帰ってくれました。今後も若者と接触するチャンスのあるところへはこのリーフレットを忘れず持参します。

III) 今後のユース・ボランティア・プログラム(YIP)

このプログラムにより、若年層とNPOをつなぐ仕組みの第一歩はできたと思っていますが、上記にもありますように、反省点もたくさんあります。この課題をクリアしながら、当会によって、若者とNPO(ボランティア・グループ含む)との橋渡しをもっと効率よく、幅広い分野でできればと考えています。とはいえ、大学生は平日広島市内の中心部にはほとんどいませんし、シュウカツ、アルバイト、授業や部活と多忙な日々を送っています。フリーターも若者交流館の利用者が全てではありません。そういう意味では、紙媒体で募集する以上に、WEBやメールを使った募集に力を入れ、どこからでもアクセスできるように整備していきたいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

ちょっと回り道しかけている若者ひとりを育てるのに、熱く燃えた10ヶ月でした。ですが、「フリーター」とひとりで片付けられている若者の良さに気づくことが多々あり、これまでのボランティア・コーディネーションとはひと味も違う経験ができました。次年度は助成していただく予定は一切なく、HEART to HEARTの自主事業となりますが、活動したい若者それぞれの希望と個性に合わせた、寄り添い型のコーディネートを「売り」の一つにできる市民団体になれるように、他団体の皆さんのご協力も仰ぎながら頑張ります。「市民の力で、若者は育つ!」を証明できる日まで。

マツダ財団の皆さま、今年度はありがとうございました! 良い仕事と良い気づきの場になりました!

活動名	団体名	カモミール〜ラマシカ〜
	地域	広島県東広島市
	代表者	代表 蘆田 智絵
	支援金額	10万円
世界の遊びを体験してみよう！		
活動概要		
本活動では、地域の子どもたちに外国人留学生と日本人大学生が世界の遊びを紹介することによって、国際交流を行った。具体的には、外国人留学生が子どもたちに自国の文化や遊び、子どもの生活の様子を紹介し、子ども達と一緒に遊んだり、外国の生活を体験したりした。エストニア・セルビア・中国・ロシア・バングラディシュ・インドネシア・タイ・マレーシア・ドイツの留学生が参加し、子どもたちとの交流ができた。子どもたちは遊びを通して楽しく国際交流をし、世界への興味関心をもつようになった。また、教員を志望する日本人大学生が将来子どもたちに国際交流を推進するための経験を積むことができた。留学生には、より日本のことを知る良い経験になった。 ◆実施時期 2011年5～7月、9月～2月第3木曜日／3月5日（東広島市三ツ城コミュニティハウス） 2011年9月24日（広島県安芸郡熊野町公民館） 2012年1月21日／2月25日（広島市子ども図書館） ◆参加人数 児童・生徒 85人、 学生 22人、 留学生 9人（エストニア・セルビア・中国・ロシア・バングラディシュ・インドネシア・タイ・マレーシア・ドイツ） 参加総人員 116名		



インドネシア 留学生さんに国の紹介をしてもらっているところです



セルビア 留学生さんにサインを書いてもらっています



タイ 留学生さんに国の紹介をしてもらっているところです。皆真剣に聞いています



中国の遊び 留学生さんと一緒に思いっきり体を動かして遊びました

◆実施に伴う効果

- ・ 外国の文化を本などで学ぶことは出来ても、実際にその国の人に会い、話すことはなかなか出来ないもので、留学生との交流を1年で12回も行うことができたことは、とても良かった。子どもたちは留学生から、これまで知らなかったことを学び、一緒に遊び、世界を広げることができた。活動を何回も続けることで、子どもたちの方から留学生に対してたくさん質問が出るようになった。子どもの外国や留学生への興味関心が高まってきた様子がうかがえた。
- ・ 異なる学年の子どもたちが一緒に遊ぶことができ、年上の子どもは年下の子どもの世話をする場面もあった。違う年齢の子どもとかかわることができる機会にもなり良かった。
- ・ 留学生が本物の楽器や生活品、おもちゃをもってきてくれ、子どもに本物を伝えることができた。
- ・ 活動回数を重ねるごとに、学生のプロプログラムの組み方や子どもとのかかわり方も上手になってきた。国を紹介する上で、1つの方法ではなく、パワーポイントを使ったり、クイズをしたり、留学生と一緒にゲームをしたり、留学生にサインをもらう機会を作ったりというように、子どもと留学生が出来るだけ多くふれあうことが出来るように、多角的な方法でアプローチするようにした。また、授業ではなく子どもが遊びとして楽しめるような活動を意識して行った。
- ・ 留学生にとって日本の子どもと遊ぶことは滅多にないためとても良い経験となった。

◆苦労した点

- ・ 留学生は子どもの前で話す経験はあまりないので、なかなか子どもにうまく遊びのルールや国の文化について説明したりできないこともあった。そのときに日本人学生が子どもたちにわかりやすいように説明をしたり、子どもが興味をもつような手立てをしたりする必要があった。しかし、その対応がうまくできず難しいこともあった。だんだんとうまくできるようにはなったが、子どもと留学生の交流が充実するために上手く支援できるよう工夫していきたい。
- ・ 外国の遊びを小学生がわかりやすいように説明するため、また学校の教室内でできるようにするため、少しルールを本来のものとは変更せざるをえないこともあった。できるだけ勝手につくり変えることは避けたいが難しかった。
- ・ 留学生に紹介してもらった遊びは体を動かす遊びが多かったが、活動はいつも室内でしなくてはならなかったのが難しかった。狭い室内で走り回る代わりに、しゃがみ歩きや四つん這いでの移動などを取り入れたが、やはり体を動かす遊びを室内でやることは大変だった。またけがをしないように配慮するのも難しかった。
- ・ 子どもが途中で飽きてしまうこともあり、どうしたら子どもが興味をもって遊べるような活動ができるか考えるのが難しかった。また、子ども主体ということを意識しすぎたせいか、ときにはうまく叱ることができず無秩序になってしまったこともあった。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ 留学生と子どもがしっかり交流するためにはどのような活動を行っていったらよいか、さらに活動内容や方法を改善していきたい。
- ・ 英語が上手く話せないこともあり、留学生と活動を考えていく際にコミュニケーションが難しく感じた。今後は、英語での会話がうまく出来るよう努力すると同時に、留学生ともしっかり意思疎通ができるように努力していきたい。
- ・ 子どもたちが受動的な参加ではなく能動的な参加ができるような場面を増やしていきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

私たちは、将来教員を目指しているため、子どもたちに国際交流の機会を提供するのにどのような手立てが良いかを学ぶとても良い機会となりました。活動を準備するのはとても大変でしたが、マツダ財団様にご支援いただき、1年に12回も活動を行うことが出来ました。

たくさんの経験を通して、子どもとどうやってうまくかかわったら良いか、また子どもにとってどのような国際交流の場が必要なのかを学ぶことができました。また、大学でも普段は留学生と接する機会はないので、滅多に出来ない経験ができました。

活動を終えて、子どもから「楽しかった」という声が聞けた時はとても嬉しく、この活動を続けてきて良かったと思いました。また子どもが留学生に質問をしたり話しかけたりしている姿をみた時、小さいころから様々な国の人とのかかわる経験することは異文化への興味関心の芽生えにつながり、これから国際社会で活躍する子どもたちを育てていくうえでとても大切なことだなと感じました。

1年間の活動を終え、メンバー全員がこの活動を続けてきて良かったと達成感を感じることができました。昨年度に引き続き今年度も活動をつづける機会をくださって本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

活動名	団体名	まちづくりジュニアスタッフ"ACT"(アクト)
	地域	広島県大竹市
	代表者	代表 寺岡 公章
	支援金額	40万円
活動概要 小学生4年生～6年生を対象として、今年は25名の参加者を迎えて3泊4日の生活重視型キャンプ活動を実施しました。整備された野営場を利用するのではなく、雑草が茂り落ち葉の積もった野原の草刈りや掃除をして、川の水を引いた流し台を設置した場所に小学生がテントを設営し、毎食自炊する班生活を営みます。また、各班には中学生が支援スタッフとしてつき、共に生活を送ります。 ◆実施時期 2011年8月4日～7日(3泊4日) 小瀬川ダム 市井原キャンプ場 ◆参加人数 参加者 25名 中高生 20名 市民会議推進員 80名 参加総人員 125名		



支援金により購入したテント



山間を流れる川で水遊び



盛り上がったキャンプファイヤー



大竹に帰った時の笑顔！

◆実施に伴う効果

私たちは、参加者に行事の全てをお膳立てせずに、参加者が「自分たちで考えて、自分達で行動し、自分たちで責任をとる」意識を持てるように努めています。そうすることで、ひと夏の楽しいだけの体験で終わる行事ではなく、自分たちも社会の一員であるという意識を学んでもらえる機会になる事を望んでいます。

将来、彼ら彼女らが自ら地域に出向いて社会参加できる大人になり、更に次代の青少年の育成につながるような循環を築きたいと願っています。

平成23年度秋頃から、教育委員会のジュニアリーダー育成事業へスタッフとして正式に参加させていただき、前述の理念を認めていただけるようになりました。

◆苦勞した点

定員が100名であったところ、実際の参加者は25名に止まりました。原因は地域のスポーツ団体の大会であったり、他団体にレジャー重視型の行事が重複していたなどの反省につながりました。近隣他団体との連携を深め、事前の情報交換をもっと密にしていく必要がありました。

◆今後の課題・発展の方向性

参加人数は、行事の成功失敗を図る指標として無視できません。しかし、参加者に迎合しすぎると、本来の事業の目的から離れてしまい本末転倒です。開催団体内で議論を深め、実施の意義を構成員全員で共有していく必要があります。

また、それを対外的にもアピールしていく事で、参加者や保護者に当行事の本質を知ってもらう取り組みが大切になってくると考えます。

◆活動を終えての感想・意見等

お陰さまで無事に行事を終える事ができました。今年の参加者の保護者にも、20年前、30年前に当行事に参加したという保護者の方がいらっしゃいました。これだけ長く続けてこられたのも、マツダ財団様をはじめとする、周囲の深いご理解に恵まれてきたからであると、あらためて感じています。

これからも大竹の子ども達にとって大切な学びの場であり続ける事ができるよう、スタッフ一同研鑽を積んでいきます。

本当にありがとうございました。

活動名 通学合宿	団体名	通学合宿実行委員会
	地域	広島県東広島市
	代表者	事務局 権代 明典
	支援金額	25万円
活動概要		
私達の地域では、子供から大人への成長の第一歩である小学校中高学年の子供を対象に、小学校へ通いながら地域センターへ寝泊まりし地域の方々と共に、食事・レクリエーションなどを行う”通学合宿(2泊3日)”を、地域の協力を得て実施した。 この活動で子供たちへの下記会得を目指し、 ①地域の方の支えを肌で感じる。 ②基本的な生活習慣を身に付ける。 ③自立心、協調性を学ぶ そして、保護者は地域の方との連携を深める。 ◆実施時期 平成23年 10月6～8日 2泊3日 東広島市高屋町 小谷地域センター ◆参加人数 子供:76名(小学4～6年生男女) 大人:41名 参加総人員:117名		



『小谷元気ッズ！わくわく！わんぱく SCHOOL』



入所式



竹コップ、竹箸作り



自作の竹コップ、竹箸で食事！

◆実施に伴う効果

総括:地域で子ども達を育てる想いの強化と地域活性化へ繋がった。

1. 子育てを終えた世代の方が、子ども達とふれ合うことによる心の活性化元気のよい子ども達と物を作ったり、遊んだり楽しい時間を過ごせたと感謝された。
2. 地域と保護者、保護者同士のコミュニケーション強化 日頃、地域の方と接する事のない保護者が、地域の方々と子育てについて話すなどが行われた。
3. 親離れ、子離れの促進
親元を離れた2泊3日の合宿は、親、子とも成長へ繋がった。
4. 友達ネットワークの構築
上級、下級生と過ごす事でそれぞれの考え方を知り、友達の輪が広がった
5. 地域の方への感謝
子ども達は、地域の方が自分達のために一生懸命して下さることを実感出来た。

◆苦労した点

1. 合宿期間中の安全・健康の確保
登下校時の事故、イベント時の怪我、食中毒等の防止策の検討と対応策に時間を要した。
2. 参加児童増大によるスケジュール管理
募集40名に対し応募76名と大盛況、全児童受け入れにより食事、入浴などは、班制で対応するなど、スケジュール管理に奔走した。
3. テント風呂の設営と撤去
地域センターにはお風呂がないため、テント風呂の機材運搬から設営、撤去作業をおやじの会保護者、先生方で行った。(人員確保が大変であった。)

◆今後の課題・発展の方向性

課題

現状の通学合宿は、準備&実行含め地域センターの負担が大きく、今後この負担を軽減して行く必要がある。平成25年度から開始される市民協働街づくりでは、真の地域行事として通学合宿を実施して行くことが望まれる。

発展性

上記如く、地域行事としての定着化を目指して行くことは当然であるが、今回初めて、広島大学ボランティアの皆さんにお手伝いしていただいた。日頃、小学児童と触れることがない彼らにとって、新鮮でかつ貴重な経験となったようである。よって今後は、地域活性、子ども育成のみならず、若者の成長の場としても「通学合宿」を企画・運営していきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

今回、貴財団からの助成により充実した地域イベントとなり、子ども、地域の方、保護者も大喜びでした。初めて、合宿参加者が募集人員の2倍近くになるなど、年々通学合宿が盛況になって来ており、子ども達もこの合宿を心待ちにしています。また、地域の各団体の支援により、この合宿が実施出来ているため、改めて地域の大切さ、人との繋がり、の重みと言うものを感じました。

季節外れの感があった”肝だめし”では、子ども達の騒ぐ声が地域センター周辺に響き、地域の方から苦情が来るかなと思いましたが、逆に、「久しぶりに元気の良い子どもの声が聞こえた」、「子どもはやっぱりこうでないとはいけない」など、温かい言葉をいただいた。

”元気の良い小谷っ子を育てよう”のスローガンの基、この通学合宿をより充実させていきたいと考えています。

貴財団の助成により、素晴らしい通学合宿が実施出来たことを、心より感謝申し上げます。

活動名	団体名	大人のかくれ家倶楽部
	地域	広島県広島市
	代表者	代表 木戸 敏明
	支援金額	15万円
人と自然とのふれあい		
活動概要 大人のかくれ家倶楽部は、毎月2回例会日を設け「自然とのふれあい」・「里山の整備」・「地域住民との交流」等をテーマに活動が続けているが、今回はその中でも子供たちを主体にした活動を採用あげた。 ①「君もカブト虫博士になろう」 子供たちを集め、カブト虫の幼虫から蛹、成虫になるまでの観察できる方法を習い、成虫の飼育小屋を作るなど継続的に年間サイクルを観察出来るようにした。(次年度も幼虫の採取から始めるイベントを開催したい) ②「森のコンサート」と餅つき体験 交流広場で大人から子供まで集めた「森のコンサート」と「餅つき体験会」を実施した。 ③間伐と枝打ち体験会 口田公民館を通して参加者を募集して、森のインストラクター指導のもと森の中で間伐体験学習を実施した。 ◆実施時期 ①「君もカブト虫博士になろう」 2011年5月15日(日) ②「森のコンサート」と餅つき体験 2011年10月15日(土) ③「間伐と枝打ち体験会」 2012年2月4日(土) 上記、いずれも「大人のかくれ家」(交流広場)にて開催 ◆参加人数 ①「カブト虫博士になろう」 子供たち30名 父兄8名 スタッフ12名 ②「森のコンサート」子供たち50名 その他230名 スタッフ27名 ③「間伐と枝打ち体験会」子供たち2名 その他12名 スタッフ10名 参加総人員 376名		



森のコンサートで、子供たちの発表風景



「森のコンサート」の観客風景



講師から子供たちが講演を聞いている風景



「森のコンサート」のプログラム

◆実施に伴う効果

- ①「カブト虫」の講座は、近隣の小学校も興味を示している。
- ②「森のコンサート」は、今回で第4回を迎え地域でも定着化した。特に、公民館サークル活動の発表の場として期待されている。また、今回は幼稚園・保育園の園児たちを森の中の自然に触れさせた催しに父兄からも感謝された。
- ③最近特に採りあげられている「里山の整備」の一環として、安佐北区役所等、公的機関からも興味を寄せられている。

◆苦勞した点

1. いずれも開催場所が山中であるため、機材の搬入等に苦勞した。
2. 「森のコンサート」に幼稚園児・保育園児を参加させたが、山中の安全面に苦勞した。
3. 「間伐と枝打ち体験会」については、話題が地味なため参加者募集に苦勞した。

◆今後の課題・発展の方向性

市民が、とりわけ将来を担う子供たちが、より多くの自然に触れ・体験し・興味を持ち、自然環境の大切さを知ってもらうよう、色々なイベントを開催し活動を発展させて行きたい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・☒公益法人 マツダ財団の助成支援を受けたことにより、私たちの活動が一層発展できたことを、大変うれしく思っております。
- ・☒私たちは、例会日を設けて継続的な活動を推進しております。そのため、今後の活動の中へ財団の趣旨に沿った「青少年健全育成」に関するイベントを多く取り入れたいと思っています。

活 動 名	府中町子ども応援隊（小学生～幼児達との親子のふれあいを大切にする子育て）	団 体 名	府中町子ども応援隊
		地 域	広島県安芸郡
		代 表 者	府中町ボランティア協議会会長 篠永 廣也
		支援金額	15万円
活動概要			
府中町地域の乳幼児から小学生の親子を対象にした子育て応援のボランティアです。子ども応援隊のグループは、下記のような役割を分担し活動をしています。 ①「布絵本」・「布の遊具」は、会員が創意工夫して手作りで作成 ②おもちゃの診断修理・絵本の読み聞かせ・子育て親子とのふれあいの場所づくり 手作りおもちゃ等で遊びながら仲間との輪をひろげる。 ③子ども応援隊のイベント イ.「府中町ふれあいん祭ー作って遊んでふれあいんさい」 ロ.「クリスマス会 ～楽器を作って アンサンブル♪～」 ◆実施時期 2011年4月1日～2012年3月31日 府中町ふれあい福祉センター・老人福祉センター福寿館(隣接) ◆参加人数 1.グループ単位の活動 参加人員1,720名 (ボランティア950名 参加者770名) 2.子ども応援隊イベント 参加人員 255名 (ボランティア 52名 参加者203名) 参加総人員 1,975名			



ペーパーシアター「スイミ」開演を待つ参加者
大きなお魚を完成させる作業にも参加しました！



ペーパーシアター「スイミ」上演
色々な道具を使い体を動かし、子どもたちも大喜び



クリスマス会、自作楽器で演奏



クリスマス会、生演奏で歌う子どもたち

◆実施に伴う効果

- ・ マツダ財団の助成金をいただいたことで、今までのふれあい祭では各グループが細々と展示や遊びコーナーを開いていたのと大きく変わって「ペーパーシアターたね工房」に来ていただき、子ども達も大人も、とても楽しめました。各グループの活動も活発化し、それぞれ趣向を凝らしたコーナーが出来ました。
- ・ クリスマス会の手作り楽器の材料は、新聞紙や牛乳パック、ラップの芯、洗剤の計量スプーン、ペットボトル等です。作って遊んで壊れても「またすぐ家でも作れるね」と参加者から、とても好評でした。

◆苦労した点

今まで各グループ単位の活動でしたが、子ども応援隊コラボについては、イベントの準備、打ち合せの時間や日程調整が大変でした。

「府中町ふれあい祭—子ども応援隊特別イベント」
「ペーパーシアターたね工房」に依頼したため、ポスターの作成等で全町内会に配布願う親子での参加者が大勢で企画は成功でした。

「子ども応援隊クリスマス会」
ふれあい祭の参加者は年齢層が広くて少し集中しにくいという反省からクリスマス会は、就学前の幼児に対象を絞り企画しました。すると今度は参加応募の伸び悩みで、声かけ作戦で何とか人数が集まりました。前日までに2組の親子さんのキャンセルがありましたが、当日はキャンセルもなく、冬場の子ども関連のイベントでは、すごいことだねと喜ばれました。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・ 子ども応援隊の活動と各クラブ活動を無理なく並行していくために、早めの準備計画と各グループのメンバー間での共有をしっかりとすることが必要だと思います。
- ・ 「子育て支援ならまかせて！」「子育てするなら府中町で！！」と自信を持って言えるよう仲間を増やしながらかつ活動していきたいです。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・ 支援いただいたことで、ダイナミックなイベントが出来ました。
 - ・ 役割分担では、電話一本での出演交渉をして不安もありましたが、忙しい中来ていただき感謝するとともに、とても勉強になりました。
 - ・ 打ち合せや準備のための作業など忙しかったけど、気分転換にもなりチームワークも感じられて楽しかったです。
 - ・ 子ども達のキラキラした笑顔や母親と父親の参加も多く、やって良かったと思いました。
 - ・ 大成功でした。
- 上記のような感想が、スタッフの口からあふれるように飛び出しました。
本当にご支援いただきまして有難うございました。

活 動 名	団 体 名	ふれあいの森なんでも工房
世界に屈しないグローバルな子どもの健全育成支援活動	地 域	山口県周南市
	代 表 者	会長 西林 稔
	支援金額	32万円
活動概要		
周南市所有6万坪の森林公園(ふれあいの森)に一部を借用して「元気なこども元気なおとなを育む森」をコンセプトとして、総てを市民活動で取り組んでいます。平成20年夏に初めて挑戦しました「世界学生と地域の子どもたちとの交流」が想像を絶する成果を得たことから、今後も世界各国学生を招き、①地域の子どもの健全育成 ②地域の皆さんとの交流 ③県内学生の交流を目的に、世界に屈することない・グローバル化に対応できる子どもの健全育成支援活動を実施しました。 ◆実施時期 2011年8月19日～8月30日(12日間) 周南市須々万本郷字西ケ原1153-1ふれあいの森を中心として ◆参加人数 参加学生108名(カナダ1・ロシア1・韓国3・日本4の9名・12日) 参加団体 13団体・参加総数663名(子ども305名・大人358名) 参加総人員 663名		



「スーパー竹とんぼづくり」体験
木工・木の実工作など様々のものづくりもしました



竹でつくる「バームクーヘン」
子どもと一緒に体験交流



ほとんど毎日「ピザづくり」
自分で働かねば食べられないのが森のルールだ



日本の食事づくりと琴の演奏体験
さすが…少し練習したら「さくら」アンサンブル演奏

◆実施に伴う効果

団体

子ども団体を中心に受け入れた結果、当初の思い通り①子どもたちの物怖じしない交流、家族や世話役さんとの交流が図れた。

地域

歴史ある地区の八朔祭り参加の子ども会神輿に支援参加し、海外学生の参加で地区評価が芽生えてきた。また、公民館活動による婦人教室(銭太鼓)、お寺訪問による仏教体験・本格的な野立て・琴の演奏アンサンブル体験・児童クラブ訪問交流(英語で歌おう・国を知ろう)など想定外のトリガー的發展に進展

活動推進

- ・活発に地域社会へアピールすることなく「地道に・口コミで浸透する」で取り組んでいく戦略が見通してきたと自負。
- ・工房活動の新しい分野(グローバル化)への道が開けたと自負。
- ・次年度からは、様々な児童クラブ団体との協働に期待でき、将来的には行政との協働に繋がると確信自負。

◆苦勞した点

予算

貴財団支援に感謝。生活支援が想像外に負担となった(電気・ガス・電話等々)特にIT通信設備がないことから学生には積極的に親元への電話を促し負担。

PR

口コミPRで充分と認識しており、苦勞はない。

参加者

東日本震災の風評影響からか、海外学生応募が少なく、開催できるか心配した。また、現地到着・離散時間が守られず歓送対応に苦慮。

地域理解

夫々の活動団体指導者を中心に参加協力ができてきたことが、想定外の感謝であり苦勞はないと自負。また、口コミ評価を耳にするも・影口がないことが最大の感謝と考えている。

◆今後の課題・發展の方向性

課題

海外学生募集の支援を国際教育交換協議会(CIEE)・山梨県立大学国際文化部にお願いしているが、当面の間は、このネットワークで取り組むべきであるが、地域の大学(徳山大学など)とのネットワーク化も検討する必要がある。

(特に今回は東日本震災の影響が大きいと想定し、次年度の結果を見たい)

發展方向性

取り組むことには問題ないが、内容的には、様々な方向性があると考え。欲張ることなく一つずつ進展させたい。次年度からは、児童クラブとの協働を関係部署と調整し、新たな取組に發展できればと計画したい。但し、基本は、ふれあい森活動拠点での協働としたい。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・☑ 昨年、新しい活動として試験的に挑戦し、本年度から貴財団の支援を戴き、本格的な活動として取り組みました。結果は、事故もなく無事終了したこと、昨年と違い、工房仲間も自信をもって支援できたこと、様々な分野の指導者の支援協力が口コミで拡充してきたことなど、嬉しい成果となった感謝しています。
- ・☑ 活動が地域社会に浸透し・評価されるまでには、地道な活動以外にないものと認識し取り組んでいきたいと考えています。IT・広報・マスコミでの活動も考えられますが結果は、社会に振られることと認識しています。社会が認識されたときは、核たる基盤ができて活動であり・また・活動拠点でありたいと考えています。

活動名	団体名	ドリームスクール実行委員会
	地域	山口県周南市
	代表者	実行委員長 中田 智加江
	支援金額	25万円
活動概要		
様々な知識を持つ地域の大人が指導者になり、子どもと共にものづくり体験や職業体験を実施し、子どもたちのものづくりや職業に対する好奇心を深め、地域の中で子どもを育てる運動を実践する。 また、空洞化が進む中心商店街の拠点でもある近鉄松下百貨店で実施することで、子どもで賑わう商店街にも寄与する。 ◆実施時期 平成23年8月11日(木)から8月16日(火) 10時から15時30分 近鉄松下百貨店6階催会場 ◆参加人数 8/11(木):188名 8/12(金):182名 8/13(土):157名 8/14(日):53名 8/15(月):114名 8/16(火):95名 参加総人員(延べ)789名		



受付風景



全体の風景



ピエロとアルーンアート体験



地域の大人から学ぶドリームスクール

◆実施に伴う効果

今回の活動は、昨年に続き2回目であるが、今年は、近鉄松下百貨店という商店街の拠点施設内の催会場で当団体が行うイベントにあわせ、近鉄松下も同時開催で、「水木しげるの妖怪道五十三次展」を開催し、商店街でも、土日限定でおばけ家敷を開催するなど、市民活動、百貨店、商店街がコラボしたイベントへ発展した。

今までのお盆期間中は、商店街への来客が少ないという状況であったが、このイベントをきっかけに、お盆期間が子供や親子連れで賑わうという状況を作ることができ、商店街活性化にも寄与することができた。また、ものづくり体験の内容も各指導者が創意工夫し、昨年度よりレベルアップしたことで、リピーターも多く、「来年もやってほしい。」「楽しかった。」という感想が多く、参加者の満足度も高かった。

◆苦労した点

予算的には、マツダ財団の支援金に頼る形になったが、近鉄松下百貨店より会場の無償提供及び新聞折込チラシでの周知PRに協力していただき、予算を最小限に抑えることができた。

しかしながら、猛暑の影響や近郊でのイベントとの競合もあり、参加人数は昨年度より減少しており、新聞折込チラシだけでなく、様々な媒体を使った周知PRが必要である。

また、活動に係わる指導者やスタッフもお盆期間中のため、日程調整が難しい方も多いため、活動への協力者をさらに増やしていく必要がある。

◆今後の課題・発展の方向性

- (1) 参加者の年齢が低年齢化しているため、親子で楽しめる体験や幼児でもできる体験メニューを増やすことが必要である。
- (2) 運営の安定
今回は、材料費(実費)＋運営費(100円)を参加者から徴収し、マツダ財団からの支援金では不足する資金を賄い運営したが、今後継続的かつ安定した活動を目指すには、新たな収入源の確保が不可欠である。
- (3) 今回は近鉄松下百貨店を会場として実施したが、今後は、商店街内の空き店舗なども活用し、商店街全体が子どものものづくり・職業体験会場となるように発展させたい。

◆活動を終えての感想・意見等

マツダ財団の支援により、2年連続で開催することができた。

参加人数を増やすためには、新たな体験活動のメニューやコンテンツの工夫が必要である。

継続することに意義があると思うので、来年度も実施できるよう今年の反省を改善し、ステップアップしていきたい。また、近鉄松下百貨店や商店街ともよい関係ができてきたので、この関係を大切に、商店街での青少年の健全育成活動が増えるよう商店街関係者へも働きかけていきたい。

活 動 名	団 体 名	おごおりウィークエンドアドベンチャー実行委員会
	地 域	山口県山口市
	代 表 者	委員長 高橋 則彦
	支援金額	25万円
活動概要		
小郡地域の小学校3校の4～6年生による年齢や学校を超えた班編成でさまざまな生活・自然・社会体験を通して、子どもたちの主体性や生き生きとした感性を育てることを目的として活動している。大人の「こだわり」と「遊び心」で、子どもの「自由な心」に触れてみませんかとボランティア指導者を募り、地域の隠れた「名人」「達人」を発掘し指導者として活動を行っている。 ◆実施時期 平成23年5月～平成24年3月 小郡地域交流センター、山口市小郡地域四十八川、山口県長門市油谷青年自然の家、山口県美祢市秋吉台、広島県山県郡北広島町西八幡原ハイランド191リゾート。 ◆参加人数 5月 入団式 97人 6月 水辺の教室&あゆのつかみ取り 102人 7月 カッター研修 100人 8月 あどべんキャンプ・ヨットイン秋穂(公共交通機関利用講座・ヨット教室・キャンプ体験) 106人 9月 あどべん国体きらめきプロジェクト 84人 10月 「ツールド秋吉台42 km」―鉄人になる1日― 81人 11月 辰のデザイン&バームクーヘン作りに挑戦 75人 12月 笑いヨガ&松ぼっすり 79人 1月 新年の願いと夢をのせて！どんど焼き！！どんど焼き・もちつき・カルタ大会) 81人 2月 それゆけスキー少年少女 83人 3月 あどべん修了式&ぎょうぎづくり大会 79人 参加総人員(延べ):967名		



10月「ツールド秋吉台42 km」―鉄人になる1日



「それゆけスキー少年少女」



カッター研修 山口県長門市油谷青年の家にて



「あどべんキャンプ」キャンプのご飯っておいしい！

◆実施に伴う効果

助成を受けた活動の原資の主なもので、カッター研修では、学校・家庭の生活を離れ、美しい自然環境の中で自然を知り、自然に親しみ、自然を経験しながら海洋研修、野外活動等を通して、自主・協力・責任・友情・奉仕等の社会性を養うことができ、心身ともにたくましくなった。

地域の小学校の駐車場を利用した公共交通機関利用教室では、路線バスの基本的な乗り方や降り方、安全やマナー、バリアフリーなどの体験を通じ公共交通への理解を深めるとともに、心のバリアフリーへの理解を深めることとなった。

山口市秋穂の中道海水浴場でのキャンプ体験・ヨット教室では、海のない小郡の子どもにとっては初めてのヨット体験であり意欲的に取り組み、大学生のヨット部の指導者から海辺での安全確保、自然との協調姿勢など日ごろ学習できないことを学習でき、キャンプを通じ年齢や学校という枠をこえた相互理解を図るうえでも大きな成果がみられた。

スキー教室では、めったに雪の積もらない小郡の子ども達にとって初めての経験であり、大自然の恵を受け安全やマナーを含め、スキー連盟の指導者から多くのことを学習した。

以上のような、年齢や学校を越えたあどべん班での年間の活動を通じ、あどべん団員は、友達や仲間を増やし地域のさまざまな生活体験や自然体験を通して、多くのことにチャレンジし自分らしさを見つける経験となった。

◆苦勞した点

年間を通じ野外での活動が多く、雨天時の持参物を持ってきていない団員がいるなど、自然を通じた体験学習であるため実施の判断や中止した際の代替案、場所の確保等が必要であったこと。

ヨットの体験では、海という自然を相手にするだけに、安全の管理には十分な注意が必要であったため団員全員ライフジャケットを着用させ、監視船も用意した。また、夏季の活動であったため、水分補給及び体調管理に細心の注意が必要であった。

◆今後の課題・発展の方向性

準備品等で天候の状況により対応できるようアイデアはないか。

年間の活動を通じ、達成感や充実感を得られることを子どもたちが実感することができた。今後は、子どもたちが皆で力を合わせやり遂げることが、社会の貢献につながる活動についても検討していきたい。

◆活動を終えての感想・意見等

あどべん団員は、「季節の旬を生かす遊び」「やる気と元気で何でも挑戦」「出会いは宝物」「いい汗かいてわかる味」をモットーに年齢や学校をこえたあどべん班での活動で、ともだちや仲間を増やし地域の活動の中でさまざまな生活体験や自然体験を通してできるだけ多くのことにチャレンジして自分らしさを見つけることが出来たと思います。

このような、貴重な体験を味わうことが出来たのも、財団法人マツダ財団様のご支援をいただいたから出来たものであり、大変感謝申し上げます。

活動名	団体名	日本宇宙少年団 周南分団
	地域	山口県光市
	代表者	分団長 志水 慶一
	支援金額	15万円
ものづくり科学教室		
活動概要		
毎月1回 年間12回の定例活動、近隣公民館での出前教室、周南市のイベントであるのんた祭りへの出展、金井宇宙飛行士との懇談会などを実施しました。定例活動は、毎回3時間で、工作、実験、見学などが主体の”楽しく作って学ぶ”を基本とする体験型活動です。子供達と父兄・スタッフが一緒になっての活動です。参加者は、各自、自分の工具などを持参し、講師の指導に従い、工作、実験を行ないます。時には、外部講師、他の会場で開催し、近隣社会との交流も行ないました。毎回違った新しいテーマですのでスタッフも生き生き、子供達にとっても楽しい活動になりました。工作・実験の前には、安全に関する注意、工作・実験に関する科学的な説明なども行ないました。 ものづくりや、科学への興味のきっかけづくり、思考力、創造力、協調性、向上心などの育成ができたものと考えております。 ◆実施時期 毎月1回 原則第3日曜日 13時～16時 定例会場： 周南市久米公民館 （左記以外・・・光市婦人の家、徳山高専） ◆参加人数 総数 約600名 (子供 約25名 父兄 約15名 スタッフ 約10名 合計約50名 50名×12回＝総数 約600名) 参加総人員 600名		



ソーラークッカーの製作



ゲルマニウムラジオの製作と電波受信



雨量計の製作



近隣企業見学(株)カンロ)

◆実施に伴う効果

周南・下松・光地域に周南分団の活動が広く知られるようになった。
市の広報紙、タウン情報誌に取り上げられ、市、公民館などからイベントへの参加、出前教室の要請がかかるようになった。
そのようなことにより、さらに衆知されることに拍車がかかった。

◆苦勞した点

2011年度は、3年目の活動でした。
予算、外部へのPRに関し、ある程度習熟し、順調に進めることが出来ました。その結果、参加者も増え、地域の理解も得られたものと考えています。
周南分団では毎月実施している、ものづくり科学教室のテーマは、常に新しいものという方針でおります。今まで実施したものでは、講師となるリーダーにとって情熱、感動が乏しくなるとの考えです。リーダーの情熱、感動が希薄となれば、当然子供達にとっても感動が薄れるとの考えです。
毎年、春頃から翌年のテーマの模索を行い、10月頃には翌年のテーマを確定すべく進めています。4年目のテーマとなるとネタも乏しくなり、テーマを決めるのが苦勞している点です。
ただ苦勞が楽しみでもあり、常に新しいテーマを実施するという考えで取り組んで行きたいと考えております。

◆今後の課題・発展の方向性

活動内容をより充実させ、1年でも長く存続させたい、さらにはものづくり科学教室を周南の地に根付かせたいと考えております。
ものづくり科学教室への参加者数は、増える一方で、質の良い教室を実施する限り、参加者数は多く、社会ニーズは高いものと考えています。
継続の為には、ボランティアリーダーの増勢が不可欠です。現在、リーダーは約10名ですが、60代後半の方が多く、このままではあと数年がやつのように思われます。
今後、ボランティアリーダー数を増やすこと、継続的にリーダーが増えるようなしくみを考えて行きたいと考えています。例えば①大人の為の科学教室の実施によるボランティアリーダーの掘り起こし ②近隣企業への働きかけ ③高校生、大学生の参加要請など
また、他の団体との連携などにより、活動の広域化、活動の多様化も進めて行きたいと考えております。

◆活動を終えての感想・意見等

忙しい思いをすることもありましたが、楽しく、充実した活動でした。色んな人、いろんな組織の応援、支援を得られ、交流もできました。感謝、感動することの多い一年でした。
ケガ、事故などに関し、ヒヤッとすることはありましたが、大過なく活動を終えることが出来、やれやれの思いです。
新しい子供達が、目を輝かせて新規参加してきています。子供達の感動、目の輝きに接することで、益々遣り甲斐を感じています。さあまた一年頑張ろうという思いでおります。

活動名	団体名	富海をホタルの里にする会
	地域	山口県防府市
	代表者	会長 平田 豊民
	支援金額	25万円
ホタル飼育施設の整備		
活動概要 5月21日に「第3回ホタルの夕べ」を開催した。約500人が参集し、大いに盛り上がりとともにホタルも例年以上に光って、ホタルウォッチングも楽しむことができた。 マツダ財団のご支援により、飼育小屋の整備(新設)に取り組み、会員が基礎工事等の手伝いをして6月15日に完成し、飼育や観察が従前と比べ格段に効率的になった。 6月初旬、メスホタルを捕獲し、採卵箱へ、その後、孵化用容器へ移した。また、餌用に粟粒大のカワニナを採取した。 6月下旬から幼虫の飼育が始まり、小学生(3・4年生)が参加する「ホタルの楽校」を3回開催し、幼虫の観察やカワニナの選別作業等を行い、子ども達がこれまで以上にホタルと深く関わることになった。 10月28日、新川へ幼虫約5,000匹を子ども達の手により放流した。 ◆実施時期 5月21日～10月28日 富海老人憩いの家、富海公民館、新川 ◆参加人数 ・ホタルの夕べ…500名 ・飼育設備の整備…延べ20名 ・メスホタル・カワニナ採取…延べ16名 ・ホタルの楽校…延べ50人 ・幼虫の放流…30人 参加総人員 616名		



「ホタルの夕べ」でジャグリングを見つめる子ども達



完成した幼虫飼育施設の前で記念撮影
(第1回ホタルの楽校)



幼虫の成長をルーペで観察(第2回ホタルの楽校)



幼虫約5,000匹を小学生(3・4年生)が放流

◆実施に伴う効果

- ・「ホタルの夕べ」については、三回目となるが、回を重ねるごとに参加者が増加しており、子どもから大人まで楽しめる「お祭り」として地域に定着しつつある。
(地域の人からも、今後も 是非続けて欲しいとの声が強い。)
- ・ホタル幼虫飼育施設がマツダ財団のご支援による整備により、高さや広さが約2倍になり、古い設備も更新でき、飼育や観察の効率が格段に向上した。
↓
- ・利用しやすい施設になったことにより、子ども向けの活動を支援する市の助成金を得て小学校3・4年生を対象とした「ホタルの楽校」事業を開始し、孵化した直後の幼虫の観察や餌用カワニナの選別作業などを実施し、子ども達が、より深くホタルに関わるようになった。

◆苦労した点

- ・飼育施設の整備については、助成金が申請額の半額であったことから、十分な整備が可能かどうか心配であったが、会員の勤労奉仕や工務店のご好意により、限られた予算の中で立派な新施設を建設することができた。
- ・「ホタルの夕べ」については、外部へのPRも進めており、地区外からの問合せもあった。参加者は、年々増加しており、今年は500人を越える人々が参集した。しかし、今後も開催を続けるためには予算的に相当きびしいと言わざるを得ない。そのため、会員から会費を徴収するとともに、当日、賛助会員も募集し、募金をお願いした。
- ・「ホタルの楽校」を3回実施したが、夏休み中に開催した2回目・3回目は、参加する子ども達の数が減ってしまったので、周知方法等を含め改善する必要がある。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・「ホタルの夕べ」を是非とも続けて欲しいという多くの人から予想以上の浄財が集まったものの将来的に資金が不足するのは間違いなく、今後、何らかの策が必要となると思われる。
- ・今年は、新幼虫飼育施設で順調に生育し、約5,000匹の幼虫を新川に放流することができた。今後も新川へ放流するとともに、以前に比べホタルの数が減っている鮎子川への放流に本格的に取り組む必要があると考えている。
- ・富海地区の国道2号4車線化事業が開始され、説明会で工事区間の新川を付け替えることになるとの事業説明があった。現在、ホタルが多数発生する場所であり、ホタルの生息に影響が生じないような施工を国土交通省へ強く要請する必要がある。

◆活動を終えての感想・意見等

今回、マツダ財団のご支援を受け、念願であったホタル飼育施設の整備ができ、心から感謝申し上げます。これまでの施設と比べ、飼育や観察の効率が格段に向上し、子ども達がホタルとより深く関わるができることになりました。

これを契機に、今後、「富海をホタルの里にする会」の活動をさらに推進し、「ホタルの夕べ」「ホタルの楽校」の開催や幼虫の飼育・放流事業等を通じ、富海地域全体の活性化にも繋げていきたいと考えています。

活 動 名	団 体 名	国際交流ひらかわの風の会
	地 域	山口県山口市
	代 表 者	会長 中村 幸士郎
	支援金額	30万円
活動概要		
マツダ財団の活動支援により、平成22年度以降、留学生等と地域住民の交流活動が一層展開することができたことに、感謝いたします。 平成23年度での主な活動として、新たに展開した「国際交流活動のリーダーの養成」では、地域の青少年(一般学生含む)を対象に「風の会学生部会」を立ち上げ、彼らにアドバイスしながら、留学生に「自国料理づくりと日常会話教室」を企画実行させることができた。 また、地域住民を巻き込んで、「留学生のための農耕文化体験事業(米・野菜づくり)」を一年間を通じて実施するとともに、「地域の恒例行事への留学生等の参加醸成とサポート」を行った。		
◆実施時期 通年 山口市平川地域ほか ◆参加人数 一行事当たり15～120人、毎月1～3回行事を通年で実施		
参加総人員：786名(観客5,000人は除く)		



1月 大内氏遺跡「凌雲寺跡」にて



4月 運動会参加の留学生テント



11月 ケニア国会議員を囲んで



12月 学生部会主催タイ料理とタイ語会話教室

◆実施に伴う効果

- ・留学生や地区在住外国人、大学生、地域住民のパイプ役を担うべく活動することができました。
- ・特に、異文化理解のための調整役となる地域リーダーの育成事業など、住みやすい町づくりを目指すとともに、外国人の日本文化の理解に資することができた。
- ・当団体が実施した諸事業は、留学生にとって、地域住民や一般学生との交流は、単なる国際交流ではなく、本音の交流となっており、仲間意識を高揚するものとなっています。
- ・留学生たちにとって忘れられない交流体験や日本文化の素晴らしさを満喫したようで、親日留学生が急増しました。
- ・地域においては、風の会の活動が刺激となって、地元平川小・平川中学校において、留学生交流授業などを積極的に取り組むこととなりました。
- ・留学生家族から、平川地域が本当の意味で住みやすさを実感できるようになったとの声が多数あった。
- ・地域の人たちと留学生家族が、スーパーやコンビニなどで気軽に声掛けができる情景が、いつもの情景になりつつある。一方、留学生家族が見知らない地域の人たちにも話しかけるようになってきた。
- ・留学生の自転車等のマナーが段々よくなってきているように感じる。
- ・参加した日本人学生による海外留学や海外青年協力隊の希望者が増えてきている。当会には、元JICA職員もいるので、学生にアドバイスする。11月には、モンゴルに海外技術研修員で教員となっている学校へ、JICAを通じて、山口国体で使用するサッカーボールやバレーボールを支援し、大変感謝された。
- ・山口大学留学生支援室との連携により、新規留学生生活説明会のカリキュラムに、必ず風の会の年間活動資料を提供していただくなど、大学側の理解度が深まった。
- ・多文化共生地域として、モデル的な位置づけとなりつつある。
- ・地区の交流センター職員が、当会の活動等に理解されるようになり、当会の諸行事に参加されたり、積極的なお手伝いをいただいている。
- ・山口大学学長戦略室の国際・社会連携担当副学長との意見交換会などで、発言力が高まってきた。
- ・イスラム系留学生家族から信頼され、2回目の出産サポート（医師との医療通訳、妊婦の送迎等）を行った。

◆苦労した点

- ・モスLEM留学生家族とモスLEM以外の留学生の料理づくりにおいて、ハラール材料を別に仕入れるなど、特別に気をつけているが、これも多文化共生社会を理解するうえで重要なことと理解している。
- ・東アジア留学生たちは金銭面で苦しいため、行事参加の負担金を安価や無料にするなどしていることから、当会スタッフ（会費とは別）の負担も増大となってきているが、マツダ財団の支援により、多少なりとも助かっている。また、留学生たちの参加機運の醸成となっている。今後も引き続き、負担軽減を図りたい。

◆今後の課題・発展の方向性

- ・外国人が300人以上居住している同地区において、多文化共生社会は避けて通れない中で、山口大学との連携が益々重要になってきている。留学生たちの居住環境においても、高額家賃で悩むことも多く、地区内のアパート経営者の中で、留学生への負担軽減を理解される経営者らとの交流会を設置し、短期（数か月程度）の居住が可能で、しかも安価（敷金、礼金無し、家賃2万円以下）で居住できるアパートを紹介できるシステムを大学側と確立していきたい。大学側からの要望でもある。
- ・地域でできる留学生家族の生活支援対策や育児支援対策等について、自分たちの役割を考えていきたい。平成24年度事業では、手始めとして、留学生と地域の親と幼児を対象に、子ども交流事業を実施する予定である。
- ・留学生たちを交えて、課題を整理し、関係機関等へ提言していけるように取り組みたい。
- ・帰国留学生とのネットワークを構築し、グローバルに、末永く国際理解や国際交流が図れるようにしていくことが大事であり、本音の交流を活発化したい。インターネットの活用やスタディ・ツアーも平成24年度では計画する。

◆活動を終えての感想・意見等

- ・地域における青少年（大学生、地域住民）に、国際理解を一層推進し、留学生との交流の中心となる役割を担わせ、多文化共生のモデル的な地域を目指す。そのために、平成23年度からスタートした風の会学生部会をしっかりと養成していきたい。
- ・山口市内の大学、留学生、地域住民、関係機関などから、風の会の活動が浸透したことで、活動に理解の輪が広がり知名度が高まった。そうしたことで、子育て交流関係では、他の子育て団体から、お手伝いしたいとの声もかかるなど、今後、コラボレーションを図っていききたいと思う。
- ・これらの諸活動に参加した留学生たちから、帰国前に、多くの思い出と日本・日本人に対する意識の変化（好意的）があったことから、親日留学生を育成していくことを主眼に今後も活動していきたいし、地域における国際交流の重要性を再認識した。その成果とはいえないが、私たちが、日ごろ留学生ケアをしているパキスタン留学生の一人が、日本人に感謝することを態度で示したいということで、東日本大震災の翌日に、宮城県内の被災地での避難所において、カレーライスの炊き出しを実行したことが、NHKで放送されましたが、こうした親日留学生の活躍は今後も期待される。
- ・こうした活動をご理解いただいているマツダ財団には、この支援が大変価値のあるものと思っている。今後活動も飛躍的な展開ができたことに感謝。

活 動 名	団 体 名	障害児(者)サポートクラブ翔
障がい者スポーツ教室	地 域	山口県周南市
	代 表 者	代表 岡崎 重正
	支援金額	25万円
活動概要	重度の知的障がい・発達障がいのある子どもたちがスポーツを楽しめるための環境づくりが必要と考え、定期的にスポーツを楽しむ、また、先住の地域の方々と障がい者スポーツの交流の場をもつことで、彼らの社会参加への道の礎となると確信しています。 ◆実施時期 毎月第2、第4日曜日 PM 1:30～ 周南市立長穂小学校体育館、運動場(休校中) ◆参加人数 児(者) 10人×2回/月×12=240人 保護者 6人×2回/月×12=144人 ボランティア 3人×2回/月×12= 72人 スタッフ 5人×2回/月×12=120人 イベント マウンテンマウス 60人 よさこい 20人 ヨット教室 15人 参加総人員:671名	



よさこい



超多動のコミュニケーションが座って観ていることがスバラシイ！！



ちよるる体操



ヨット教室

◆実施に伴う効果

- ・ マウンテンマウスライブ
近隣の須々万中学校より多くの生徒が駆けつけてくれた。障がいのある彼らと一緒に踊っていただき、その光景を見て感動し涙する保護者がいた。障がいのある彼らが社会参加するとき健常者の理解がとても大事になる。
- ・ ヨット教室
体験したことのないヨットに乗り、子どもたちの笑顔、その笑顔を見て保護者も喜ぶ。
- ・ グラウンドゴルフ大会
きららドームで長穂地域のおじいちゃんおばあちゃんと一緒にドーム内でゴルフ？喜んだのは、おじいちゃんおばあちゃん達でした。
- ・ よさこい体験
山口県立大学生の指導で、思いっきり体を動かし、全員満足。

◆苦労した点

私どもは、障がいのある者たちが集まる集団ではない。障がいのある者たちが社会参加するには、健常者の理解が絶対必要である。それには、常に活動の中で健常者との交流が必要である。しかし、普通学校の小中学校へ申し入れても、なかなか理解されていないのが現状。また、行政からの支援が全くないのがとても残念である。

彼らを支援するには、労力も時間もかかります。再三行政に申し入れしても返ってくる言葉は「予算が無い！」山口県内で最も遅れている行政の対応で、保護者も無関心になっている。この事態は何としても解消しなくてはならない。

◆今後の課題・発展の方向性

前述したように、行政の支援のない中、当会は障がいのある子どもたちがスポーツを楽しめる環境を作って、彼らが好きな時、好きな競技が好きになれるようにしたい。スポーツにはルールがある。社会にもルールがある。スポーツを通して彼らが社会参加へ向けて活動することを、我々は精一杯支援していかなければならない。

H24年度は、競技別にクラブ化していきたい。

近隣地域の小・中学生と一緒に活動したいため、広報活動を活発にする。

◆活動を終えての感想・意見等

新しい体験をして、子どもの笑顔が最高である！！

障がいがある中で、親が社会に遠慮しているのか、怖がっているのか、諦めているのか。

子どもたちは精一杯チャレンジしている。その結果で出た「笑顔」「最高である」「こんな表情見たことない」彼らに夢を持てる時間でした。

第27回(2011年度) マツダ財団市民活動支援 贈呈式



《広島県》



《山口県》



《府中陸上競技協会》



《ひろしまおもちゃ病院》



《東区障害児のためのサマースクール》



《食べて語ろう会》



《みやじま未来ミーティング》



《プロジェクトC》



《エコINNくろせ》



《太田川アクティブアーチ実行委員会》



《夢配達人プロジェクト 玖島実行委員会》



《特定非営利活動法人みらい福山》



《直美の部屋》



《ロボカップジュニア広島ブロック保護者会》



《永慶寺川の自然を守る会》



《ピピオ子どもセンター》



《(財)日本ダウン症協会広島支部えんぜるふいつしゅ》



《高校生環境ネットワーク広島》



《よしじま職人工房》



《ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART》



《カモミール〜ラマシカ〜》



《まちづくりジュニアスタッフ"ACT"(アクト)》



《通学合宿実行委員会》



《大人のかくれ家倶楽部》



《府中町子ども応援隊》



《Global Bridge》



《ふれあいの森なんでも工房》



《ドリームスクール実行委員会》



《おごおりウィークエンドアドベンチャー実行委員会》



《日本宇宙少年団 周南分団》



《富海をホテルの里にする会》



《国際交流ひらかわの風の会》



《障害児(者)サポートクラブ翔》

マツダ財団青少年健全育成市民活動支援

第26回(2010年度)

活 動 名	団 体 名	地 域
第8回おのみち100km徒歩の旅	特定非営利活動法人おのみち寺子屋	広島県尾道市
「宮園小学校にビオトープを造ろう」	ふるさと宮園ビオトープの会	広島県廿日市市
第2回くれ絵本カーニバルの開催	くれ絵本カーニバル実行委員会	広島県呉市
市民協働による省エネ手作り玩具工作の普及と環境美化	晴海町・青社会	広島県呉市
2010呉子ども祭	呉子ども祭実行委員会	広島県呉市
B&Cタッチステーションを各地に広げよう B&Cタッチサポーター研修	B&Cタッチ・ステーションの会	広島県呉市
東広島おもちゃ図書館ビノキオ10周年記念行事	ひまわり	広島県東広島市
高校生による環境教育・学習活動	高校生環境ネットワーク広島	広島県広島市
伴南学区における地域安全対策活動	伴南学区安全対策連絡協議会	広島県広島市
都市活性化事業「都市ギャラリープロジェクト」	広島市立大学都市ギャラリープロジェクトチーム	広島県広島市
吉島地域の地元住民である町職人と小学生が連携した「小学生のための物づくり体験」	よしじま職人工房	広島県広島市
世界の遊びを体験してみよう！	カモミール〜ラマシカ〜	広島県東広島市
創作合唱オペラ「いのものけ」公演(初演)	創作合唱オペラ「いのものけ」公演実行委員会	広島県三次市
若者と描く「多文化共生のまち廿日市」の夢	ええじゃん(Asian)	広島県廿日市市
スイゲンゼニタナゴを知ろう！守ろう！～郷土の生きた宝ものを地域で守る～	スイゲンゼニタナゴを守る市民の会	広島県福山市
こどもの広場	こどもの広場実行委員会	広島県広島市
子ども森林ボランティア養成講座「もりメイトキッズ」	もりメイト倶楽部Hiroshima	広島県広島市
ONE HOME PROJECT(ワン・ホーム・プロジェクト)	Grobal Bridge	広島県広島市
学生ボランティア「ほんわかプロジェクト」の定着と実践活動への支援	ほんわかプロジェクト応援団	広島県広島市
中高生ボランティア育成	特定非営利活動法人ワーカーズコープ広島支部	広島県安芸郡
エコ学習の実践	大学環境ネットワーク協議会	広島県広島市
一般公募における、小グループ活動を中心とした青少年対象野外教育「クラブ事業」	キララ・カウンセラーズ・クラブ	山口県山陽小野田市
山口ひびき少年塾－ほくらの/ふるさと探検/タウンウォッチング－	山口ひびき少年塾	山口県山口市
子どもたちと進める里山復活大作戦	Seeds(シーズ)	山口県柳井市
子どもドリームスクール2010	ドリームスクール実行委員会	山口県周南市
ものづくり科学教室	日本宇宙少年団 周南分団	山口県光市
外国人留学生と平川地域における青少年健全国際交流活動	国際交流ひらかわの風の会	山口県山口市
幼児、小学生読み聞かせ活動推進支援事業	防府市読書グループ連絡協議会	山口県防府市
香月泰男生誕100年記念 小・中・高校生のための教材制作～わたしのシベリア～	特定非営利活動法人子どもとともに山口県の文化を育てる会	山口県山口市
「古泉城彦六(こせんじょうひころく)物語」紙芝居プロジェクト	古泉城ニコマル文庫	山口県萩市
自閉症・発達障害の子どもをサポートするボランティアのためのハンドブック及びDVD作成	自閉症児を育てるママたちの会 ママかん	山口県山口市
合 計	31件	800万円

第25回(2009年度)

活 動 名	団 体 名	地 域
犯罪被害防止教室開催	広島県福山北警察署管内少年補導協働員連絡協議会	広島県福山市
こどもの広場	こどもの広場実行委員会	広島県広島市
東区障害児のためのサマースクール	東区障害児のためのサマースクール	広島県広島市
文化伝承邦楽「箏」の伝承指導	邦楽グループ 城友会	広島県豊田郡
夢山コンサート～羽和泉 竹の楽団～	羽和泉みどりの少年団	広島県三原市
学童工作教室の新展開と環境美化及び、地域資源を活かしたふれあいイベントによる地域社会の絆づくり	晴海町・青社会	広島県呉市
小学生が楽しく実習して理科好きになる「地域と大学とのコラボによる竹炭・竹酢液・竹塩作り体験」	大道山竹炭工房	広島県東広島市
学生による各種環境教育活動	大学環境ネットワーク協議会	広島県広島市
子供達に文化の継承とボランティア演奏	こども琴クラブ	広島県東広島市
ART PARTY	ART PARTY実行委員会	広島県広島市
第12回猿猴川河童まつり	段原地区町づくり協議会(猿猴川河童まつり実行委員会)	広島県広島市
加計小夢配達人プロジェクト推進事業巨大万華鏡づくり	加計小夢配達人プロジェクト安芸太田実行委員会	広島県山県郡
北広島町夢配達人プロジェクト推進事業(植物写真集作成)	北広島町夢配達人プロジェクト実行委員会	広島県山県郡
認知症予防の「脳と体の健康ルーム(NPO運営)」の展開と若者サポーターの参加と育成プログラム	NPO法人うたしの会	広島県広島市
障害児の余暇活動と支援	府中町手をつなぐ親の会	広島県安芸郡
歌による子どもたちの表現活動の支援 子ども・子育て情報紙の発行による地域の中での子育てを支援	こどもステーション	広島県福山市
都市ギャラリープロジェクト	広島市立大学都市ギャラリープロジェクトチーム	広島県広島市
エコ工作教室	広島環境サポーターネットワーク	広島県広島市
「蘇れ 母なる海 松永湾 パート3 みんなで考える環境保護」	環境市民ネット松永	広島県福山市
田んぼの楽校	広島市ネイチャーゲームの会	広島県廿日市市
西区ミニ障害児子どもまつり	こすすの会	広島県広島市
親子わくわく科学教室	特定非営利活動法人三次科学技術教育協会	広島県三次市
第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	第34回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会実行委員会	広島県広島市
友楽タイムおいでよせだっ子	早稲田学区青少年健全育成連絡協議会	広島県広島市
みて！みて！平和のでっかい絵	社団法人 広島青年会議所	広島県広島市
地域のお宝大発表会 i n 田町商店街	萩子ども情報センター協議会	山口県萩市
非行少年の更生と福祉に関する諸活動	山口少年友の会	山口県山口市
わくわく土曜塾	長門市中央公民館事業企画運営委員会「わくわく土曜塾」担当	山口県長門市
美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部事業	美祢市子連ジュニアリーダーズクラブ於福支部	山口県美祢市
「療育に関する事業(キラキラ☆キッズ)」[余暇支援及び生活支援に関する事業(キラキラ☆クラブ)]	NPO法人シンフォニーネット	山口県下関市
わくわく科学SUMMERフェスティバル2009	岩国科学をたのしむ会	山口県岩国市
ホテルのタベ	富海をホテルの里にする会	山口県防府市
合 計	32件	800万円

市民活動支援

1. 募集・応募・選出状況

第27回(2011年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

(1) 募 集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

(a) 対象活動	青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動 ①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯 ④エコ □□□□□□⑤国際交流・協力 □ ⑥科学体験・ものづくり
(b) 募集地域	広島県、山口県
(c) 支援期間	単年度支援 2011年4月1日～2012年3月31日の1年間
(d) 支援金総額	800万円
(e) 1件当り支援金額	10万円～50万円
(f) 募集期間	2010年10月13日～2011年1月14日

(2) 応募状況

締切日までに97件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・広島県	36件(37%)
	・広島市	32件(33%)
	・山口県	29件(30%)
(b) 分野別	・自然とのふれあい	19件(20%)
	・ボランティア育成	10件(10%)
	・地域連帯	45件(46%)
	・エコ	3件(3%)
	・国際交流・協力	13件(14%)
	・科学体験・ものづくり	7件(7%)

(3) 支援対象の選出

選考委員会(2011年2月21日・22日開催)での審議の結果、支援候補として、総計31件800万円が選出され、2011年3月23日開催の第3回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2011年4月20日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の24団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2011年4月25日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の7団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

2. 支援件数の推移

本年度を含む３年間の支援件数、内訳は次のとおりです

(応募件数および支援件数)

	本年度(第27回) 2011年度	第26回 2010年度	第25回 2009年度
応募件数 (件)	97	92	97
支援件数 (件)	31	31	32
支援比率 (%)	32	34	33
支援金総額 (万円)	800	800	800

(地域別状況)

地 域	2011年度		2010年度		2009年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
広島県 (件)	36	12	31	12	35	13
広島市 (件)	32	12	33	9	36	12
山口県 (件)	29	7	28	10	26	7
合 計 (件)	97	31	92	31	97	32

(分野別状況)

地 域	2011年度		2010年度		2009年度	
	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数	応募件数	支援件数
自然とのふれあい (件)	19	6	12	4	20	4
ボランティア育成 (件)	10	3	13	6	14	5
地域連帯 (件)	45	13	41	12	39	16
エコ (件)	3	2	7	2	4	2
国際交流・協力 (件)	13	4	14	5	8	1
科学体験・ものづくり (件)	7	3	5	2	12	4
合 計 (件)	97	31	92	31	97	32

役員・評議員名簿

平成24年(2012年)7月1日 現在

財団役職	常・ 非常勤	名 前	役 職
理 事 長 (代表理事)	非	山 内 孝	マツダ株式会社代表取締役会長兼社長
専務理事 (代表理事)	非	黒 沢 幸 治	マツダ株式会社常務執行役員
常務理事 (業務執行理事)	常	魚 谷 滋 己	公益財団法人マツダ財団事務局長
理 事	非	上 田 宗 冨	上田宗箇流家元
理 事	非	岡 谷 義 則	株式会社中国新聞社代表取締役社長
理 事	非	片 山 義 弘	広島大学名誉教授
理 事	非	櫟 本 功	広島大学名誉教授
理 事	非	山根 八洲男	広島大学大学院工学研究院教授
理 事	非	山 野 正 登	有人宇宙システム株式会社相談役
監 事	非	友 田 民 義	公認会計士
	非	藤 本 哲 也	マツダ株式会社財務本部副本部長
評 議 員	非	赤 岡 功	県立広島大学長
評 議 員	非	浅 原 利 正	広島大学長
評 議 員	非	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター代表理事
評 議 員	非	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター特任教授
評 議 員	非	小 柴 是 睦	公益財団法人中国電力技術研究財団専務理事
評 議 員	非	佐 藤 次 郎	財団法人日本語教育振興協会理事長
評 議 員	非	竹 林 守	マツダ株式会社相談役
評 議 員	非	堀 憲 次	山口大学工学部長
評 議 員	非	山 木 勝 治	マツダ株式会社特別顧問
評 議 員	非	山 中 昭 司	広島大学大学院工学研究院特任教授
評 議 員	非	山 西 正 道	広島大学名誉教授
評 議 員	非	吉 田 総 仁	広島大学大学院工学研究院長
評 議 員	非	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社相談役

(五十音順・敬称略)

NOTE:

この概要はマツダ財団が2011年度に支援を行った
「青少年を育むための市民活動」31件の活動のひとつです。

お問い合わせは、マツダ財団事務局へ☒

住所: 〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地3-1 マツダ(株)内

TEL: (082)285-4611

FAX: (082)285-4612

E-mail: mzaidan@mazda.co.jp

ホームページ: <http://mzaidan@mazda.co.jp>

マツダ財団市民活動支援とは

次代を担うこどもたちが、いろいろなことに興味を持ち、多くの感動を得ることのできる生活体験の機会の提供や地域社会づくりのための諸活動を支援。

対 象 青少年の健全育成を目的とした、主に民間の非営利活動。☒
自然とのふれあい、ボランティア育成、地域連帯、エコ、国際交流・協力、科学体験・ものづくりの各場面で、特に、子供たちの参画度の高い活動、創意工夫を育てる活動や、地域でのさまざまな支えあい活動、学校5日制を活用するプログラム、学校と地域が連携する活動を支援。
青少年の範囲は概ね6歳～24歳。

募集期間 毎年10月中旬～翌年1月中旬 活動は翌年4月以降に実施されるもの
(4月1日より即実行できるよう、年度開始前に募集し、支援を決定します。)

募集地域 広島県、山口県

支援金額 1件当たり 10万円～50万円